

平成23年度

公益事業振興補助事業

補助事業実施に関する事務手続要領

別冊 「補助事業評価事務手続要領」

(検診車・機器)

財団法人 **J K A**

目 次

はじめに	1
I 補助事業評価の流れ	2
II 補助事業の評価について	3
(難病研究機器)	
III 事前計画の作成にあたって	10
事前計画の作成の注意事項(1)	10
事前計画 記入例 記入のガイドライン(1)(2)	11～12
事前計画の作成の注意事項(2)	13
IV 自己評価書の作成にあたって	14
自己評価書の作成の注意事項(1)	14
自己評価書 記入例 記入のガイドライン(1)(2)	15～16
自己評価書の作成の注意事項(2)	17
(検診車)	
III 事前計画の作成にあたって	18
事前計画の作成の注意事項(1)	18
事前計画 記入例 記入のガイドライン(1)(2)	19～20
事前計画の作成の注意事項(2)	21
IV 自己評価書の作成にあたって	22
自己評価書の作成の注意事項(1)	22
自己評価書 記入例 記入のガイドライン(1)(2)	23～24
自己評価書の作成の注意事項(2)	25
(福祉機器)	
III 事前計画の作成にあたって	26
事前計画の作成の注意事項(1)	26
事前計画 記入例 記入のガイドライン(1)(2)	27～28
事前計画の作成の注意事項(2)	29
IV 自己評価書の作成にあたって	30
自己評価書の作成の注意事項(1)	30
自己評価書 記入例 記入のガイドライン(1)(2)	31～32
自己評価書の作成の注意事項(2)	33

本要領は、平成23年度公益事業振興補助事業補助事業実施に関する事務手続要領(以下「補助要領」といいます。)の別冊として、平成23年度公益事業振興補助事業の評価に係る諸手続きに関して必要な事項を定めたものです。

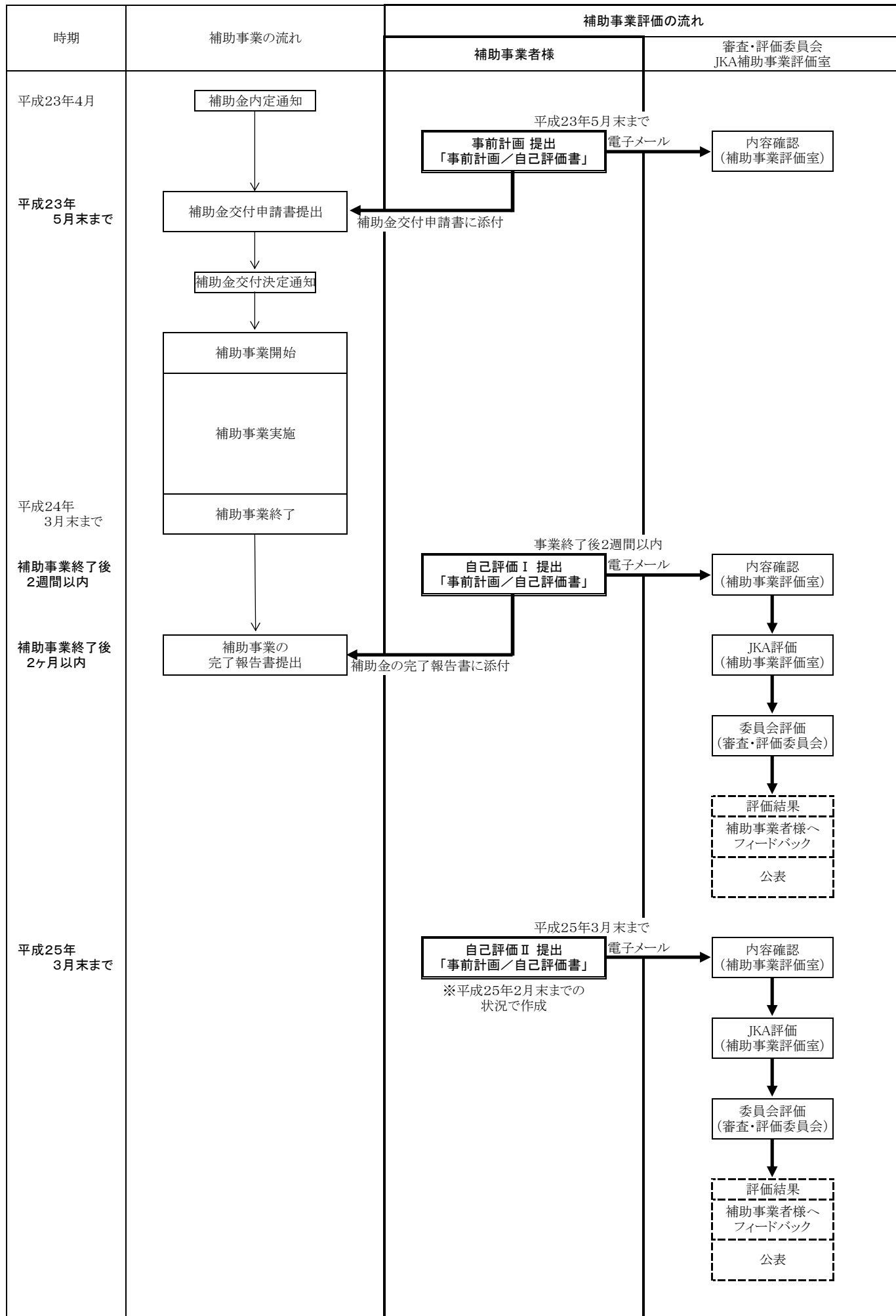
補助事業の評価にあたっては、「競輪公益資金による体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の補助を行うための業務方法に関する規程」及び「オートレース公益資金による体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の補助を行うための業務方法に関する規程」(両規程を総称して以下「公益規程」といいます。)並びに「競輪公益資金による体育事業その他の公益の増進を目的とする事業に関する補助細則」及び「オートレース公益資金による体育事業その他の公益の増進を目的とする事業に関する補助細則」の他、補助要領及び本要領に定めた事項に従って事務処理を進めてください。

★ 事前計画／自己評価書の作成にあたって★

- 事前計画／自己評価書の様式は、本財団ホームページからダウンロードしたものをご使用ください。
- 事前計画は、本財団が補助事業の審査をするにあたって、また補助事業者様自らが事業を管理するにあたって、非常に重要なアイテムです。
- 事前計画作成の際は、自己評価書作成時に使用する、「記入のガイドライン」、「自己評価のスコアリングガイド」等もご確認ください。
- 事前計画は、事業終了後に行う自己評価とともに、公表の対象となりますので、作成にあたっては、次の各点にご留意ください。
 - ・内容を簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するようにしてください。
 - ・専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用し、初めて読む方にも理解し易い説明、文章を心がけてください。

問 合 せ 先	財団法人 JKA 補助事業評価室 評価担当
	〒102-8011 東京都千代田区六番町4番地6
電話 直通	03-3512-1279
FAX	03-3512-1274
問い合わせ時間	平日の午前9時30分から午前12時まで 午後1時から午後5時30分まで
URL	http://ringring-keirin.jp
Email	p23hyoka@keirin-autorace.or.jp

I 補助事業評価の流れ



II 補助事業の評価について

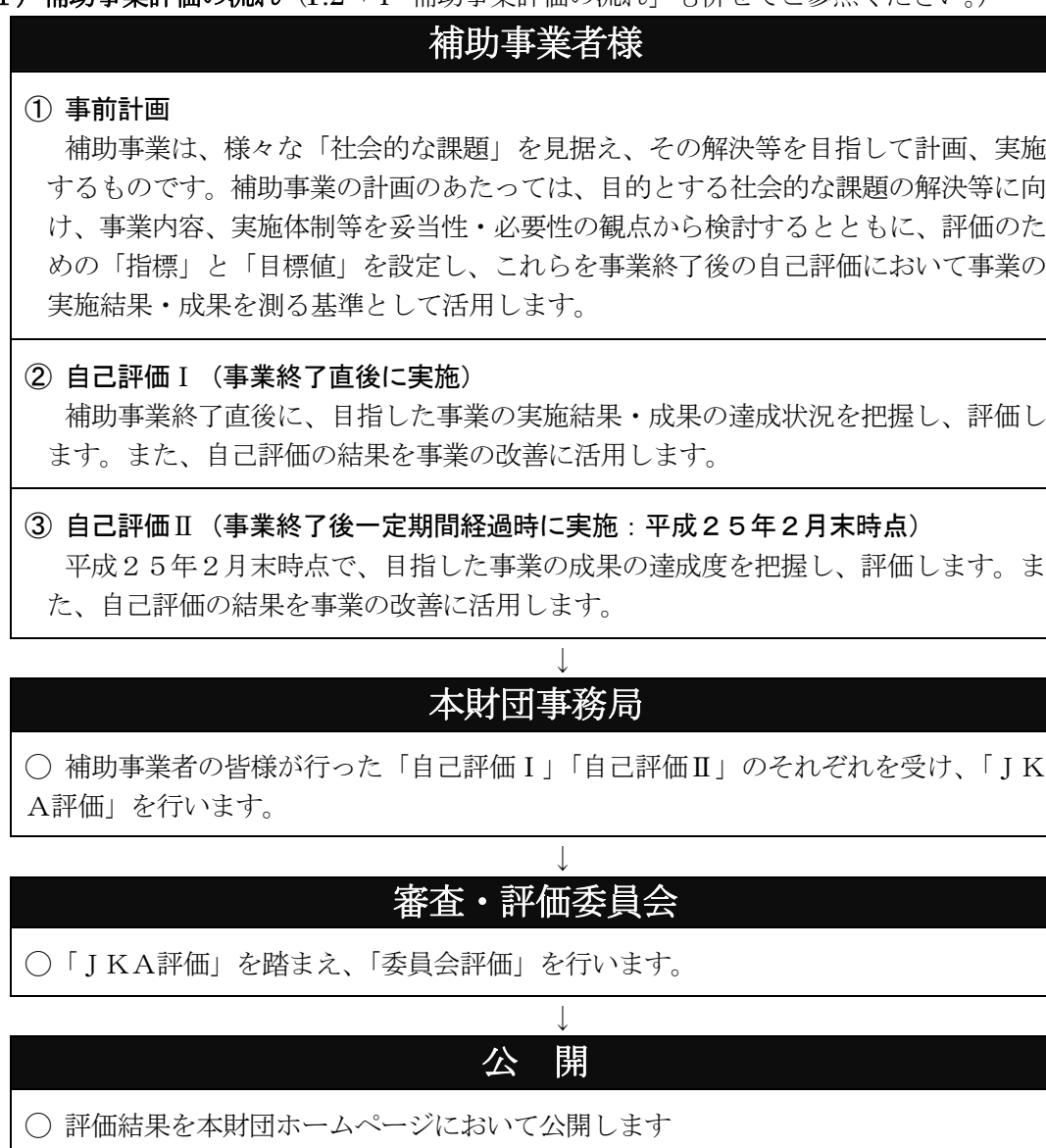
本財団は、補助事業の透明性、効率性を確保するとともに、補助事業の更なる向上を図るため、外部の有識者による公益事業振興補助事業審査・評価委員会（以下「委員会」といいます。）を設置して補助事業の評価を行い、その結果を公表することとしています。

補助事業者の皆様には、補助事業評価の一環として、下記に掲げる「事前計画」から始まる、一連の「自己評価」を行っていただきます。

「自己評価」は、事業の実施結果の確認、成果の測定にとどまらず、評価の視点で事業全体を振り返ることで、課題等が明確になり、補助事業者様自らの今後の事業の改善等に役立てることができます。

1. 補助事業評価の枠組み

（１）補助事業評価の流れ（P.2「I 補助事業評価の流れ」も併せてご参照ください。）



（２）補助事業者様に、委員会で補助事業の成果を発表していただく場合がございます。

（３）委員会委員が、実際に補助事業の現場を見せていただく場合がございます。

※上記（２）（３）ともに、候補を選定のうえ、対象となる補助事業者様にご連絡します。

2. 事前計画について

(1) 補助事業の事前計画の企画・立案、実施

補助事業者の皆様の実施する補助事業は、補助事業者様自らが、ある特定の「社会的課題」を見据え、その改善、解消、解決を最終目的として、企画・立案し、実施するものです。

ア 補助事業の企画・立案

- ① 「社会的課題」の把握
- ② 達成すべき「社会的課題が解決・改善された目指す姿（最終目的）」を設定
- ③ 最終目的に至るまでの手法を検討・決定

【「補助事業」を企画・立案】

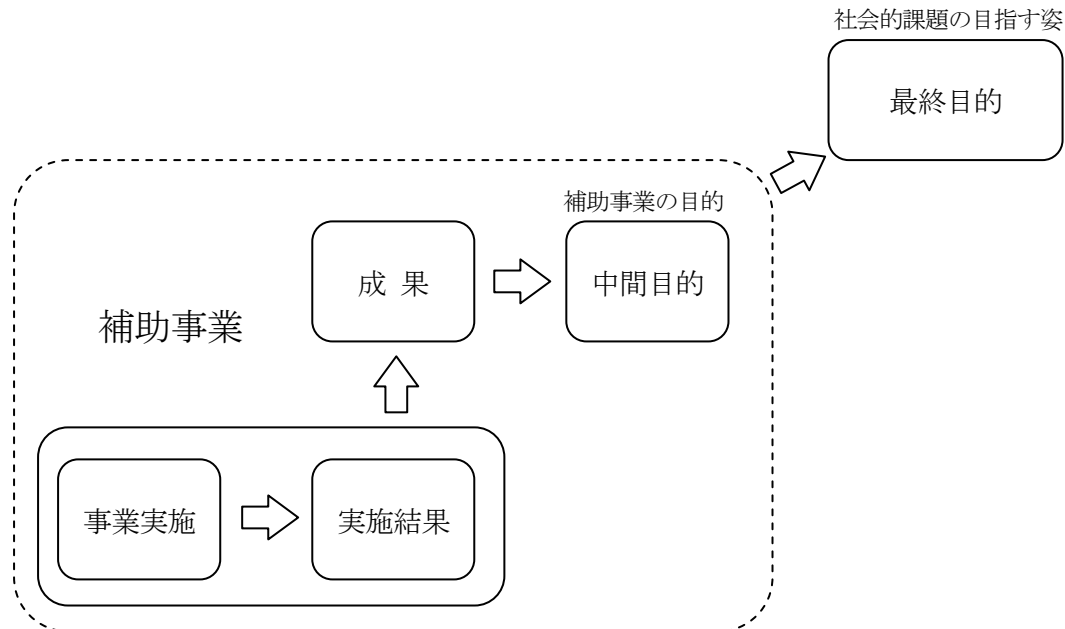
- 1) 最終目的を実現するための、「補助事業の目的（中間目的）」を設定
- 2) 中間目的を実現するための、補助事業の実施内容、目指す実施結果・成果を設定

※「社会的課題」の把握 ⇒ 最終目的を設定 ⇒ 「補助事業」を企画・立案（中間目的の設定 ⇒ 実施内容・実施結果・成果を設定）

イ 補助事業の実施

- ① 「補助事業」を実施
- ② 予定した「補助事業」の「実施結果」を達成
- ③ 予定した「補助事業」の「成果（社会に及ぼす改善効果）」を達成
- ④ 中間目的を達成
- ⑤ 最終目的を達成（「社会的課題」の改善・解決等）

※「補助事業」を実施 ⇒ 実施結果 ⇒ 成果を達成 ⇒ 補助事業の目的（中間目的）を達成 ⇒ 社会的課題が解決・改善された目指す姿（最終目的）を達成



ウ 「事前計画／自己評価書」への記入

上記を踏まえ、補助事業の事前計画を、(P.6「3. 事前計画の作成・提出」)に従い、次の順でご記入ください。

- ① 補助事業で改善・解決等を目指す、「社会的課題（最終目的）」の「現状」と「目指す姿」を明確に記入する。

- ② 「社会的課題（最終目的）」の改善・解決等のために、補助事業（成果・波及効果）で達成を目指す「補助事業の目的（中間目的）」の達成後の姿を明確に記入する。
- ③ 「補助事業の目的（中間目的）」を達成するための、補助事業の内容と、目標とする「事業の実施結果」、「事業の成果・波及」等を明確に記入する。

（２）事業の「実施結果」と事業の「成果」

補助事業による効果が目的とする社会的な課題の解決に寄与していることを明確にするため、下記のとおり、補助事業の「実施結果」と「成果」を明確に区分し、把握することが重要です。（それぞれに後述の指標及び目標値を設定します。）

ア 事業の「実施結果」

事業実施の直接的な産出物、提供されたサービス

- （例）福祉車両の配備（されたこと）、施設の建築（されたこと）、講習会の開催実績（回数・参加者人数等）、児童虐待防止啓発チラシの配布実績（配布枚数・箇所数等）
- ※P6「評価指標の設定例」（枠内）では、「夜回りの回数」「夜回りの参加人数」

イ 事業の「成果」

事業の実施結果をもとに受益者、対象に起こる改善効果（変化）

- （例）障がい者の社会参加の促進・受益者の意識改革※P6「評価指標の設定例」（枠内）では、「（月平均の）落書き件数」
- ① 事業終了直後に把握できる「成果」
- 「実施結果」の直接的影響で、事業実施中・直後に生じる受益者・対象への効果等
- （例）講習会参加者の意識の変化・改革、満足度等
- ② 事業終了後一定期間が経過して把握できる「成果」
- 「実施結果」・「成果（終了直後）」を通じて生じる、受益者・対象への効果等
- （例）講習会参加者のその後の行動等の変化、さらには地域社会への影響、新分野の産業の萌芽、地元産業の基盤拡大等

（３）評価のための「指標」と「目標値」を設定する

「実施結果」・「成果」を把握し評価するため、事前計画で評価のための「指標」と「目標値」を設定します。

ア 評価のための「指標」の設定

- ① 評価のための指標とは、事業の結果・成果を評価する物差しとなるもので、基本的には、測定できる数字で表したものです。
- ② どの指標及び測定方法を選択することが成果を測ることに適しているのか、事前計画段階において関係者間で十分に検討することが重要です。
- ③ 指標及びその測定方法を設定するポイントを以下に掲げました。
- ・ 測定すべきものを測定していること（どこの段階の何を測定するのか）
 - ・ 具体的で測定が容易であること
 - ・ 数値等、具体的な値を設定することができ、計測が容易（コストや手間から見て現実的である）で、結果が比較的短期間（１年程度）で得られること
 - ・ 信頼できる結果であること
 - 何回測っても、誰が行っても同じ結果が得られること

【評価指標の設定例】

例として「商店のシャッターや外壁に落書きが多発し、商店街の景観が損なわれている」（課題）を解決し、「きれいな商店街を取り戻す」（目指す姿）ことを目的とした事業を行うことを考えます。

落書きを抑止には、様々な事業（例えば、定期的に夜回りを行う、啓発チラシを作成・配布する、街灯の増設・光量を増やす、防犯カメラを要所に設置・増設する、落書きを発生直後に消去して落書きをしにくい環境をつくる 等々）が考えられますが、ここでは、「警察と連携した、商店会有志による夜回り実施」事業を採用したとします。

この事業の結果、成果を評価するために、何を測定すれば（何を指標とすれば）良いかが、ポイントとなります。

【指標・目標値の例】

1) 事業の「実施結果」

「実施結果」は、「事業実施の直接的な産出物、提供されたサービス」ですので、

【指標】は、「夜回りの回数」、「夜回りの参加人数」等が、

【目標値】は、「夜回り」月 30 回、「参加人数」平均 5 人等が考えられます。

2) 事業の「成果」

「成果」は、「事業の実施結果をもとに受益者、対象に起こる改善効果（変化）」ですので、

【指標】は、「（月平均の）落書き件数」等が、

【目標値】は、「落書き件数」の 80% 減少等が考えられます。

イ 「目標値」の設定

① 指標設定の次に、どのくらいの達成を目指すのかという目標値を設定します。

② 目標値は、補助事業評価の判断基準となるもので、非常に重要な項目です。

なぜそのような目標値に設定するのか、その根拠を統計や基準などによって説明できる必要があります。また、その目標値が関係者間で合意されていることが大切です。

3. 事前計画の作成・提出

事前計画は、補助金交付要望時に「事前計画／自己評価書」にてご提出いただいておりますが、今般様式を変更し、補助事業で解決を目指す「社会的課題欄」等を追加するとともに、評価項目によっては新たに指標と目標値欄を設けましたので、（「Ⅲ 事前計画の作成にあたって」 難病研究機器：P.10～P.13、検診車：P.18～P.21、福祉機器：P.26～P.29）に従い作成の上、補助金交付申請時に補助金交付申請書に添付しご提出ください。また、併せて、補助事業評価室へメールにてご送付ください。

(1) 様式

事前計画／自己評価書は、本財団ホームページからダウンロードした様式をご使用ください。

(2) 作成数

「事前計画／自己評価書」は、事業毎（補助金交付内定通知別紙「事業計画書」の3. 補助事業計画（2）内容で列挙された事業毎）に作成してください。

(3) 補助事業評価室への提出

紙面でのご提出と併せて、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へもメールにてご提出をお願いします。

【事前計画のメール提出】 補助金交付申請と同時

A メール件名を「事前計画」とし、添付ファイル名を、「補助事業番号 事前 補助事業者名」としてください。

(例) 23-〇-〇〇 事前 (社) 〇〇協会

B 対象事業が複数あり、「事前計画／自己評価書」を複数作成する場合は、下記の例にならない、添付ファイル名に番号を記載してください。

(例) 2事業ある場合 23-〇-〇〇 事前 (社) 〇〇協会 2の1

 23-〇-〇〇 事前 (社) 〇〇協会 2の2

(4) 計画変更について

補助金交付要望時の「事前計画」に変更を加える場合は、今までの「事前計画」を「補助事業交付要望時欄」へ記入し、計画の変更に伴う「事前計画」を「計画変更時（最終計画）欄」へ記入してご提出ください。

4. 自己評価について

(1) 自己評価を行う意義

事前計画時に設定した指標及び目標値、または実施体制等について、事業終了後にその達成状況、実施状況を評価していただきます。自己評価は、事業の実施結果の確認、成果の測定にとどまらず、事業全体を振り返り、評価結果を確認・分析し、なぜそうなったかを考えることで事業の課題等が明確になり、教訓（新たな知識、知見）を得ることで、補助事業者様自らの今後の事業の改善等に役立ててすることができます。

(2) 自己評価の実施

自己評価は、「自己評価Ⅰ」と「自己評価Ⅱ」の2回実施していただきます。

ア 1回目（自己評価Ⅰ）⇒ 事業終了日から2週間以内に本財団へ提出

「事業終了後すぐ」に評価委員会等を開催のうえ評価を実施していただき、補助事業の実施状況、補助事業の実施結果、実施直後に発生する成果（改善効果）について把握し、事前計画と照らして評価していただきます。

※自己評価Ⅰの実施・自己評価書作成は、（P.8「5. 自己評価書の作成・提出（1）」）に従ってください。

イ 2回目（自己評価Ⅱ）⇒ 平成25年3月末までに本財団へ提出

「事業終了から一定期間経過後」（平成25年3月）に評価委員会等を開催のうえ評価を実施していただき、（平成25年2月末までの）補助事業の成果・波及効果及び、

広報の状況について把握・評価いただくとともに、事前計画で掲げた「補助事業の目的（中間目標）」、「社会的課題（最終目標）」への貢献、達成状況の評価していただきます。
※自己評価Ⅱの実施・自己評価書作成は、(P.9「5. 自己評価書の作成・提出（2）」）に従ってください。

(3) 自己評価のポイント

ア 評価結果が活用できること

評価結果がわかりやすく、役に立つものであることが大切です。そのためには、自己評価を実施する前に、何のために自己評価を行うのかを再度確認してください。

イ 信頼できる評価であること

補助事業に係わる一部の特定の担当者や組織だけでなく、なるべく利用者や参加者などの幅広い関係者、外部の第三者なども加わった評価委員会を組織し、評価を行うことが望まれます。

なお、特定の関係者のみで自己評価を実施しなければならない場合には、それ以外の関係者などの意見をヒアリングするなど、信頼できる自己評価に努めてください。

※評価にあたっては、議事録等を作成し評価過程を記録してください。

5. 自己評価書の作成・提出 （2回）

(1) 1回目 【自己評価Ⅰの提出（事業終了後2週間以内）】

ア 自己評価の実施

事業終了後、すぐに評価委員会等を開催し、事前計画を記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」をもとに、補助事業の評価を行ってください。

※その際は、参加者、評価過程等を必ず記録してください。（議事録等）

イ 自己評価Ⅰの作成・提出

（「Ⅳ 自己評価書の作成にあたって」難病研究機器：P.14～P.17、検診車：P.22～P.25、福祉機器：P.30～P.33）に従い、事前計画を記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記するかたちで、自己評価Ⅰを作成し、事業終了後2週間以内に、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします。

② 作成した自己評価は、「補助事業の完了報告書」に併せ、紙面（モノクロプリント）でもご提出ください。

【自己評価Ⅰのメール提出】 事業終了後2週間以内

A メール件名を「自己評価Ⅰ」とし、添付ファイル名を、「補助事業番号 評価Ⅰ 補助事業者名」としてください。

（例） 23-〇-〇〇 評価Ⅰ （社）〇〇協会

B 対象事業が複数あり、「事前計画／自己評価書」を複数作成している場合は、下記の例にならない、添付ファイル名に番号を記載してください。

（例） 2事業ある場合 23-〇-〇〇 評価Ⅰ （社）〇〇協会 2の1

23-〇-〇〇 評価Ⅰ （社）〇〇協会 2の2

(2) 2回目 【自己評価Ⅱの提出（平成25年3月）】

ア 自己評価の実施

平成25年3月を迎えたら、すぐに評価委員会等を開催し、事前計画、自己評価Ⅰを記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」をもとに、平成25年2月末までの補助事業の成果とその波及状況等について、評価を行ってください。

※その際は、参加者、評価過程等を必ず記録してください。（議事録等）

イ 自己評価Ⅱの作成・提出

（「Ⅳ 自己評価書の作成にあたって」難病研究機器：P.14～P.17、検診車：P.22～P.25、福祉機器：P.30～P.33）に従い、事前計画、自己評価Ⅰを記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記するかたちで、自己評価Ⅱを作成し、平成25年3月末までに、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにてご提出をお願いします。

【自己評価Ⅱのメール提出】 平成25年3月末まで

A メール件名を「自己評価Ⅱ」とし、添付ファイル名を、「補助事業番号 評価Ⅱ 補助事業者名」としてください。

（例） 23-〇-〇〇 評価Ⅱ （社）〇〇協会

B 対象事業が複数あり、「事前計画／自己評価書」を複数作成している場合は、下記の例にならい、添付ファイル名に番号を記載してください。

（例）2事業ある場合 23-〇-〇〇 評価Ⅱ （社）〇〇協会 2の1

 23-〇-〇〇 評価Ⅱ （社）〇〇協会 2の2

6. 評価結果の公開

評価結果については、補助方針にも示したとおり「Ring! Ring! プロジェクト」のホームページで公開いたします。

7. 委員会における成果の発表

補助事業者様に、委員会で補助事業の成果を発表していただく場合がございます。

8. 現場視察

委員会委員が、実際に補助事業の現場を見せていただく場合がございます。

9. お問い合わせ

「事前計画／自己評価書」の作成についてご不明な点がございましたら、補助事業評価室までお問い合わせください。（補助事業評価室 担当 木村・石川）

連絡先 電話 03-3512-1279

※電話受付時間 午前9時30分～午前12時・午後1時～午後5時30分

Eメール p23hyoka@keirin-autorace.or.jp

Ⅲ 事前計画の作成にあたって

事前計画の作成の注意事項（１）

補助事業の事前計画を、右ページの様式の記入ガイドライン(噴出し部分)、記入例等を参考に作成してください。（P4「2. 事前計画について」も併せてご参照ください。）

※ 事前計画／自己評価書の様式は、A3横版の2枚構成になっています。

(1) 事前計画は、補助金交付内定通知 別紙「事業計画書」の3. 補助事業計画（2）内容欄に
列挙された項目（事業）毎に作成してください。

(2) 様式は、必ず本財団ホームページからダウンロードしたものをご使用ください。

ア 事前計画で記入する箇所は、白抜きの太枠で囲まれた欄のみです。

イ 簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するとともに、専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用するようにしてください。

ウ 要望時から計画に変更のない事業は「補助金交付要望時」の列に記入してください。査定結果で事業内容に変更が生じた事業は、要望時の計画を「補助金交付要望時」の列に記入し、さらに、変更箇所のみを隣の「計画変更時」の列に記入してください。

エ 「指標」と「目標値」は、必ずご記入ください。（P.5・P.6もご参照ください。）

① 指標、目標値欄が設定された評価項目

「自己評価」で達成率（達成状況）を計算していただきますので、数値で表現した指標と目標値を必ず1セット以上設定してください。

② 指標、目標値欄の設定がない評価項目

できるだけ数値で表現できる指標と目標を設定し、ご記入ください。

（数値表現が難しい場合は、数値以外の指標と目標を設定するよう努めてください。）

③ 指標、目標値の設定にあたっては、必ずその設定根拠を具体的な内容欄に記入してください。

【右ページの丸付き数字の欄は以下のとおり記入してください。】

- ① 事業項目が複数ある事業の幾つ目の事業で総項目数はいくつか。
- ② 内定通知書に記載された整理番号。
- ③ 要望時から補助事業者名の変更があるときは名称変更欄へ旧名称を記入。
- ④ 内定通知書に記載された事業名。
- ⑤ ①の項番に該当する項目名。
- ⑥ 該当する文字を残す。（該当しない文字は削除する。）
- ⑦ 補助事業として何年計画事業の今年が何年目になるか。
- ⑧ 要望書提出時のそれぞれの金額を記入。
- ⑨ 内定通知書別紙「事業経費明細」の補助率を記入。

平成23

事前計画記入例記入のガイドライン(1)

難病研究機器

①

項番

1

/

総項目数

2

②

整理番号

23-1-000

補助事業者名 ③	(財)XXXXXXセンター	事業項目名 ⑤				委託の有無 ⑥	無	委託比率 (50%以上) ⑥	無	補助金(千円) ⑧		補助対象経費総額(千円)		補助率	
	名称変更	事業形態 G ()	事業コード	公益目的事業の種類	事業区分	⑥	新規	⑦	1年目	1年計画	交付要望額	10,000	要望時	20,000	⑨ 1/2
補助事業名 ④	平成23年度 難病に関する研究機器の整備補助事業					各事業区分のチェックポイントに ・沿っている ()		・沿っていない項目がある		交付決定額(a)		交付決定時			
数字は全て半角で入力してください。①②⑦⑧⑨千円未満は切捨ててください。⑧															

【社会的課題と補助事業の関係 流れ図】

1.社会的課題（補助事業で改善・解決等を目指す社会的課題の現状と目指す姿を記入してください）

社会的課題 (最終目的)	現 状	16歳未満の〇〇〇症候群(特定疾患)の診断及び評価において、××診断、なかでも▲▲▲検査は重要な位置をしめるようになりつつありますが、標準化という点についてたくさん問題があるのが現状である。
	目指す姿	国内での16歳未満の〇〇〇症候群患者の〇〇診断における▲▲▲検査の普及及び技術の普及及び技術の向上による、〇〇〇診断及び診療の質の向上。

補助事業の目的達成により、社会的課題の適切な対応、改善、解消、解決を図り、「目指す姿」を実現する。

2.補助事業の設計・評価（社会的課題の改善・解決等に資する補助事業を設計し、事業終了後に自ら事業を評価してください）

(1) 補助事業で達成を目指す、目的の達成後の姿

補助事業の目的 (中間目的)	〇〇診断▲▲▲検査の標準化研究の開始。
-------------------	---------------------

補助事業の成果・波及効果により、目的達成を図る。

※社会的課題と補助事業の関係（なぜこの補助事業を計画し、実施する必要があるのか？）

- 補助事業は、様々な「社会的課題」を見据え、その対応、改善、解消、解決を目指し、計画・設計し、実施するものです。
(1) 補助事業の設計
「社会的課題」の把握 ⇒ (改善・解決のための手法決定) ⇒ 達成「目的」の設定 ⇒ 「目的」達成のため「補助事業」を計画
(2) 補助事業の実施
「補助事業」の実施 ⇒ 「補助事業」の実施結果 ⇒ 「補助事業」の成果(改善効果) ⇒ 「目的」の達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等
- 左記に「社会的課題と補助事業の関係」を示す「流れ図」を掲げましたので、事前計画とともに内容を記入し、流れ図を完成してください。
- 補助事業の設計と実施にあたっては、この「流れ図」と自らの補助事業を対比し、計画は明確な「目的」、「成果」、「結果」、「内容」が設定され、「社会的課題」の改善・解決等に資するものであるか(流れを合理的に説明できるか)を、常に検証してください。
- また、補助事業実施の効果等を客観的に把握し今後の改善につなげるため、各評価項目の達成度を検証する「指標」(達成指標)と「目標値」を計画段階でこの「事前計画／自己評価書」で明示し、事業実施後に各評価項目の「指標」の達成度を検証し、事業を評価することが重要です。

枠内は補助事業終了後に作成してください。 枠内は平成25年2月末までの状況を同年3月に作成してください。

作成者名、作成日(半角)を入力してください。
2ページ目には自動的に反映されます。

(3) 補助事業の自己評価（自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ）

事前計画

自己評価Ⅰ

自己評価Ⅱ

評価項目		補助金 交付要望時 作成者() [平成 年 月 日]				計画変更時(最終計画) 作成者() [平成 年 月 日]				自己評価Ⅰ 自己評価Ⅱ				自己評価Ⅲ			
		具体的な内容								自己評価Ⅰ 自己評価Ⅱ				自己評価Ⅲ			
A 事業内容	受益者	対象者	特定疾患である16歳未満の〇〇〇症候群治療者及び今後の発症者										採点				
		ニーズ	16歳未満の〇〇〇治療を受けているのは全国で1万人(23年4月現在)、16歳未満の1万人に1人の割合で発症。														
	具体的内容	▲▲▲診断検査の標準化研究のため、最新〇〇型、〇〇〇診断装置を当センターへ導入する。										採点					
		実施計画	[〇〇診断検査機器の導入計画] 〇〇診断検査標準化委員会を〇月下旬に開催し、設置基準、機種を選定、入札方法を決定 〇月に入札後の委員会開催で決定し契約、〇月に〇〇センター〇〇室へ設置・検収・調整 [導入後の運用計画] 翌月から標準化のための研究実施														
実施体制	[導入までの実施体制] 〇〇診断検査標準化委員会(10名体制)。当センター事務局長(1名)、当センター付属臨床研究施設(〇〇〇病院)の〇〇検査科(2名)、〇〇医療システム科(2名)、小児科(2名)日本〇〇診断検査標準化委員会委員2名、〇〇大学教授1名 [導入後の実施体制] 研究業務に当たっては上記実施体制が引き継ぎ、検査機器の管理はセンター事務局の総務係が管理する。										採点						
B 目標	事業の実施結果	指標	目標値	具体的な内容				指標	目標値	具体的な内容				達成度	達成状況	分析・解釈・価値判断	採点
		〇〇診断装置導入	23年〇月～研究開始	標準化研究を〇月～開始し、23年度末にある程度ガイドラインを標準化委員会に提出するために、実施計画どおりを指標目標値とした。													
事業の成果・波及		①ガイドラインの発表 ②導入機器によるデータ蓄積数	①24年10月日本〇〇標準化委員会 ②200件	①機器導入より約1年間の研究結果から〇〇診断検査標準化ガイドライン(1次)として全国組織である「日本〇〇診断検査標準化委員会」で発表することを指標、目標値とした。 ②ガイドライン作成のために必要な検証データの件数を目標値とした。													

この事業により利益を受ける人または組織
直接的に受ける人(組織)と間接的に受ける人(組織)が分けられるときは
分けて記入してください。

本事業が必要とされている状況を具体的に記入してください。

受益者のニーズに応え、補助事業の目的を達成する為に行う事業の内容を
具体的に記入してください。

事業の実施計画を具体的に記入してください。
【機器導入計画】準備から導入までのスケジュール管理
【機器導入後の運用計画等】導入後の運用計画と管理計画

事業の実施体制について、以下の項目を記入してください。
【機器導入の実施体制】事業を実施するメンバー構成、責任者と役割分担
【機器導入後の実施体制】導入後の運用の実施体制と管理の実施体制

事業の実施結果の目標を定めてください。
【指標・目標値】例 検診車両の導入数・1台 等
【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。

補助事業終了後から一定期間経過後(平成25年2月末まで)に達成を目指す成果目標を定めてください。
【指標】波及した成果を測定することができる指標を記入してください。
【目標値】具体的な目標数値を記入してください。
【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。
○成果の利活用について、補助事業で得られた成果をどのように活用するか記入してください。

記入のガイドライン

平成25年度事前計画 記入例 記入のガイドライン(2)

難病研究機器

☐ 枠内は補助事業終了後に作成してください。

☐ 枠内は平成25年2月末までの状況を同年3月に作成してください。

(2) 補助事業の事前計画

(3) 補助事業の自己評価 (自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ)

評価項目		事前計画						自己評価				
		補助金 交付要望時 作成者() [平成 年 月 日]			計画変更時(最終計画) 作成者() [平成 年 月 日]			自己評価Ⅰ <input type="checkbox"/> 補助事業終了時作成 作成者() [平成 年 月 日]		自己評価Ⅱ <input type="checkbox"/> 平成25年3月に作成 作成者() [平成 年 月 日]		
		指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容	達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断		採点
C 広報	補助事業によりもたらされた成果の広報	①患者の会情報誌掲載 ②HP更新 ③日本〇〇標準化委員会HP更新回数	①1誌1回 ②1回 ③1回	①患者の会情報誌へ研究事業の計画を掲載。 ②当センターホームページに、研究事業の計画を掲載。 ③日本〇〇標準化委員会HP、研究事業の計画を掲載。				<div>【上段】事業開始から事業終了後2週間までの広報計画を記入してください。補助事業であることを貴団体内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。</div> <div>【下段】事業終了後2週間後から25年2月末までの間の広報計画を記入してください。補助事業であることを貴団体内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。</div> <div>【「指標」・目標値(例)】マスメディアの取材回数・2回、業界新聞・雑誌掲載時期・2回 等</div> <div>【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。</div>				
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①患者の会情報誌掲載 ②HP更新 ③日本〇〇標準化委員会HP更新回数	①1誌1回 ②1回 ③1回	①標準化ガイドラインの1次発表後その内容を掲載。 ②標準化ガイドラインの1次発表後その内容を掲載。 ③標準化ガイドラインの1次発表後その内容を掲載。								
	JKAの競輪・オートレース補助金で実施された事業であることの広報	①当センターHP更新回数	①1回	①装置導入後研究事業開始時に1回。								
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①当センター業務報告書に掲載 ②当センターHP更新回数 ③ガイドライン発表時の広報	①2回 ②2回 ③2回	①23年度及び24年度の当センター事業の業務報告書へ詳細を掲載。 ②成果の広報更新に合わせ掲載2回。 ③23年度末時の日本〇〇診断検査標準化委員会への報告時と〇〇検査診断標準化ガイドライン(1次)発表時の会場のプロジェクターで検査装置を説明する際に表示する。								
D 自己評価の体制		具体的な内容			具体的な内容			分析・解釈・価値判断		採点		
		当センターの事業評価委員会(内部6名、外部有識者2名で構成)を開催し、自己評価する。			<div>事業の自己評価体制について、以下の項目を記入してください。 ○評価を実施する体制(メンバー構成など)、責任者 ○評価の具体的な方法、手順 ○構成に第3者(外部委員など)が入るのであればその旨記入してください。 ○自己評価結果の公表方法</div> <div>※詳細は、スコアリングガイドを参照。</div>							

記入のガイドライン

(4) 補助事業の総括 Ⅰ(自己評価Ⅰ:補助事業終了時) 作成者() [平成 年 月 日]

補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

①採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください)

総合評価

②総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目についてご記入ください)

今回の事業で、優れていると評価できる点	今回の事業の課題・改善すべきと思われる点
事業全体の総括的感想	事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アピールしたい点等(あれば)

(5) 補助事業の総括 Ⅱ(自己評価Ⅱ:平成25年2月末までの状況) 作成者() [平成 年 月 日]

平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。

○事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標)、社会的課題/最終目標	
------------------------	--

-12-

事前計画の作成の注意事項（２）

（３）事前計画の提出

事前計画は、本要領に従い、ご記入の上、補助事業交付申請時に紙面（モノクロプリント）で補助金交付申請書に添付しご提出ください。

※紙面でのご提出と併せて、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へもメールにてご提出をお願いします。

※メール提出方法は、（P.6「３．事前計画の作成・提出」）をご参照ください。

補助事業の表示・公表について（重要）

当該事業が補助事業であることの表示と、補助事業の実施内容と成果の公表が行われない場合、あるいは不十分な場合は、公益規程第 30 条の定めにより、補助金の全部又は一部の交付の決定を取り消す場合がありますので、表示・公表を徹底してください。また、十分なPRに務めてください。

（本財団では、証左となる写真、印刷物、映像・音声データ等のご提出を求めます。）

○補助事業を実施する場合には、補助事業である旨の表示

「JKA の競輪・オートレースの補助金で実施された事業」であることが、補助事業に接する一般の方にご認識いただけることがポイントです。（標識の表示等）

○「JKA の競輪・オートレースの補助金で実施された事業」であることの公表

「JKA の競輪・オートレースの補助金で事業を実施したこと」を、広く社会一般にお知らせすることがポイントです。（市報への掲載等）

※表示等の詳細は、補助要領をご参照ください。

IV 自己評価書の作成にあたって

自己評価書の作成の注意事項（１）

自己評価を、右ページの様式の記入ガイドライン（噴出し部分）と記入例等を参考に、提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記（採点欄のある評価項目は、自己評価のスコアリングガイドを基準に採点・記入）し、提出してください。（P.7「4. 自己評価について」）も併せてご参照ください。

※ 事前計画／自己評価書の様式は、A 3 横版の 2 枚構成になっています。

(1) 自己評価は、採点も含め、評価委員会等の自己評価体制の合意のもとで実施してください。

※評価にあたっては、議事録等を作成し評価過程を記録してください。

(2) 簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するとともに、専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用するようにしてください。

(3) 記入箇所と提出期限

① 1 回目（自己評価Ⅰと補助事業の総括Ⅰ）

右ページ「記入例」では太枠で囲まれた欄（ダウンロード上は青色に彩色された欄）です。

② 2 回目（自己評価Ⅱと補助事業の総括Ⅱ）

右ページでは角丸二重枠で囲まれた欄（ダウンロード上はピンク色に彩色された欄）です。

(4) 非数値の指標と目標値の達成状況

評価項目により、非数値の指標と目標を設定した場合でも、その達成状況を必ずご記入ください。

【自己評価のスコアリングガイド 1/2】

A 受益者	5	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。また加えて、想定した受益者を超えて、補助事業の効果が大きな広がりを見せている。
	4	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。
	3	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、一部変更はあるものの当該受益者のニーズにほぼ沿った事業を実施することができた。
	2	受益対象者、ニーズの想定の一部に誤りがあり、計画変更が必要であった。または、受益対象者、ニーズの想定は適切であったものの、計画に問題があり当該受益者のニーズに対応するために、大幅な計画変更が必要であった。
	1	受益対象者、ニーズの想定に大きな誤りがあった。または、受益対象者、ニーズの想定に誤りがなかったものの、本事業の内容との齟齬が大きく、計画変更を行っても当該受益者のニーズに対応することができなかった。
A 実施計画及び実施体制	5	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画（実施手法・スケジュール・コスト・体制）であった。また、実施過程における更なる創意工夫により、スケジュール面、コスト面等で事前計画を超える事業を実施することができた。
	4	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画（実施手法・スケジュール・コスト・体制）であった。また、事前計画通りに円滑、効果的かつ効率的に事業を実施できた。
	3	事前計画の実施手法、実施体制で若干不十分な部分があり、修正が必要であったが、ほぼ支障なく事業を実施できた。
	2	事前計画に不十分な部分（実施手法・スケジュール・コスト・体制）があり、コストの増加、スケジュールの遅延等で計画変更を余儀なくされた。
	1	事前計画またはその実施過程に問題があり、コストの大幅な増加（事前計画の 50%以上の増加）またはスケジュールの大幅な遅延（事業の完了が平成 24 年 3 月 31 日を越える）が生じた。
B 事業の実施結果	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
B 事業実施の成果・波及	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、想定外の成果の波及効果があった。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、想定外の成果の波及効果があった。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、想定外の成果の波及効果があった。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または達成値が明確でなく達成状況が判定できない。

千円未満は切捨ててください。
数字は全て半角で入力してください。

※社会的課題と補助事業の関係（なぜこの補助事業を計画し、実施する必要があるのか？）

数字は全て半角で入力してください。
小数点第1位まで記入してください。
(小数点第2位を四捨五入)

1. 補助事業は、様々な「社会的課題」を見据え、その対応、改善、解消、解決を目指し、

(1) 補助事業の設計

「社会的課題」の把握 ⇒ (改善・解決のための手法決定) ⇒ 達成「目的」の設定 ⇒ 「目的」達成のため「補助事業」を計画

(2) 補助事業の実施

「補助事業」の実施 ⇒ 「補助事業」の実施結果 ⇒ 「補助事業」の成果(改善効果) ⇒ 「目的」の達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等

2. 左記に「社会的課題と補助事業の関係」を示す「流れ図」を掲げましたので、事前計画とともに内容を記入し、流れ図を完成してください。

3. 補助事業の設計と実施にあたっては、この「流れ図」と自らの補助事業を対比し、計画は明確な「目的」、「成果」、「結果」、「内容」が設定され、「社会的課題」の改善・解決等に資するものであるか(流れを合理的に説明できるか)を、常に検証してください。

4. また、補助事業実施の効果等を客観的に把握し今後の改善につなげるため、各評価項目の達成度を検証する「指標」(達成指標)と「目標値」を計画段階でこの「事前計画／自己評価書」で明示し、事業実施後に各評価項目の「指標」の達成度を検証し、事業を評価することが重要です。

小数点第1位まで記入してください。
(小数点第2位を四捨五入)

補助事業の成果・波及効果により、目的達成を図る。

☐ 枠内は補助事業終了後に作成してください。
 ☐ 枠内は平成25年2月までの状況を同年2月に作成してください。
 作成者名、作成日(半角)を入力してください。
 2ページ目には自動的に反映されます。

(3) 補助事業の自己評価 (自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ)

記入のガイドライン

(2) 補助事業の事前計画

評価項目		事前計画						自己評価				採点
		補助金 交付要望時			計画変更時(最終計画)			自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ		
		指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容	作成者() [平成 年 月 日]	達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断	
C 広報	補助事業によりもたらされた成果の広報	①患者の会情報誌掲載 ②HP更新 ③日本〇〇標準化委員会HP更新回数	①1誌1回 ②1回 ③1回	①患者の会情報誌へ研究事業の計画を掲載。 ②当センターホームページへ掲載。 ③日本〇〇標準化委員会HPへ掲載。					①1誌1回 ②1回 ③1回	①100% ②100% ③100%	①患者の会情報誌へ研究事業の計画を掲載。(〇月号掲載 別紙のとおり) ②当センターホームページに、研究事業の計画を掲載。(〇月号掲載 別紙のとおり) ③日本〇〇標準化委員会HP、研究事業の計画を掲載。(〇月号掲載 別紙のとおり)	4
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①患者の会情報誌掲載 ②HP更新 ③日本〇〇標準化委員会HP更新回数	①1誌1回 ②1回 ③1回	①標準化ガイドラインの1次発表後その内容を掲載。 ②標準化ガイドラインの1次発表後その内容を掲載。 ③標準化ガイドラインの1次発表後その内容を掲載。					①1誌1回 ②1回 ③1回	①100% ②100% ③100%	①標準化ガイドラインの1次発表後その内容を掲載。(〇月号掲載 別紙のとおり) ②標準化ガイドラインの1次発表後その内容を掲載。(〇月号掲載 別紙のとおり) ③標準化ガイドラインの1次発表後その内容を掲載。(〇月号掲載 別紙のとおり)	4
	JKAの競輪・オートレース賞金で実施した事業でこの広報	①当センターHP	①1回	①装置導入後研究事業開始時に1回(〇月号掲載別紙のとおり)					①1回	①100%	①装置導入後研究事業開始時に1回(〇月号掲載別紙のとおり)	4
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①当センター業務報告書に掲載 ②当センターHP更新回数 ③ガイドライン発表時の広報	①2回 ②2回 ③2回	①23年度及び24年度の成果の広報更新に含める。 ②23年度末時の日本〇〇標準化委員会への報告時、24年度末時の日本〇〇標準化委員会への報告時に併せて掲載する。 ③23年度末時の日本〇〇標準化委員会への報告時と〇〇診断検査標準化ガイドライン(1次)発表時の会場のプロジェクターで検査装置を説明する際に表示する。(別紙開催時の会場写真のとおり)					①2回 ②2回 ③2回	①100%※予定 ②100% ③100%	①23年度及び24年度の当センター事業の業務報告へ詳細掲載。(23年度分は別紙のとおり、24年度分は別紙(案)のとおり) ②上記成果の広報更新に合わせ掲載2回。 ③23年度末時の日本〇〇標準化委員会への報告時と〇〇診断検査標準化ガイドライン(1次)発表時の会場のプロジェクターで検査装置を説明する際に表示する。(別紙開催時の会場写真のとおり)	4
D 自己評価の体制		当センターの事業評価委員会(内部6名、外部有識者2名で構成)を開催し、事業評価を実施した。						〇計画通りの評価体制、手法、時期によって実施できたか。 〇評価結果の公表状況について記入してください。 〇計画通りに実施できなかった場合には、その原因を分析して記入してください。(委員会等開催時の議事録等を添付してください)				5

(4) 補助事業の総括Ⅰ(自己評価Ⅰ:補助事業終了時) 作成者() [平成 年 月 日]

補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

①採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください)

②総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目についてご記入ください)

総合評価

4

採点欄の平均ではありません。自己評価のスコアリングガイド【総合評価】に沿って採点してください。

今回の事業で、優れていると評価できる点	【実績】 23年〇月最新〇〇型〇〇〇診断装置の導入できたこと。 【理由】 当初は〇月に導入、翌月研究事業開始の計画だったが、機器選定や入札業務から搬入までスムーズに運び、予定より3週間早く搬入検収ができ、23年度末にある程度ガイドラインを標準化委員会に提出できそうである。	今回の事業の課題・改善すべきと思われる点	【課題】〇〇診断装置を〇〇社の最新機種で選定したが、1機種に絞った為入札参加業者が補助事業及び〇〇センターの基準はクリアしたが4社と少ない結果になった。 【改善策】 機種選定にあたっては、メーカーの違う同等機種が可能であれば、並列で入札広告をすることとしたい。
事業全体の総括的感想	研究計画や機種選定をおこなう〇〇診断検査標準化委員会の構成員に、付属臨床研究施設のスタッフを含めたため、開催の日程調整が大変であった。 まだ装置が導入されてばかりで、特定疾病である〇〇症候群の〇〇診断の標準化の研究開始は来月から実施する。研究では、十分なデータを収集・蓄積ができるかが重要であり、年度末の報告の成否もこれにかかっている。そのため、当センターの体制の見直しによる効率化と、患者の会や付属臨床研究施設との連携によって研究を進めて行きたい。	事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アピールしたい点等(あれば)	機種選定や研究計画のプロセスで、〇〇検査診断標準化委員会の体制に研究計画と導入機器選定においてはオブザーバーとして〇〇症候群患者〇の会事務局長の出席していただき、診断を受ける立場の意見が計画段階から反映させることができた。

(5) 補助事業の総括Ⅱ(自己評価Ⅱ:平成25年2月末までの状況) 作成者() [平成 年 月 日]

平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。

○事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標)、社会的課題(最終目標)の達成状況	1. 事業の目的(中間目標) 装置導入後標準化の研究をはじめ24年3月15日に中間報告(当センター利用の〇〇症候群患者及び個人医院からの紹介者の協力を得て、検査標準化ガイドラインのためのデータ89人の例検証をもとにした)を日本〇〇標準化委員会へ報告した(別添報告書のとおり)。24年10月〇日東京〇〇会館において、〇〇検査診断標準化のガイドライン(1次)を日本〇〇標準化委員会へ発表した。なお、導入後の試験装置のデータ例蓄積の実績は平成23年〇月～25年2月末で302件 別紙実績表のとおりであった。 2. 社会的課題(最終目標) 日本〇〇標準化委員会での発表後、標準化ガイドライン(1次)について、5つの医療機関にて標準化ガイドラインとして試験的に採用したい旨意見があった。今後の課題としては、導入機器により、蓄積数の少なかった年齢のデータ収集に努め、〇〇検査診断標準化のガイドライン(2次・最終版)発表のため研究を続け、全国〇〇症候群16歳未満の〇〇〇診療における▲▲▲検査の普及及び技術の普及及び技術の向上を図り、〇〇〇診療の質を向上させる。
------------------------------	---

自己評価書の作成の注意事項（２）

(5) 補助事業の総括Ⅰの総合評価欄の採点も自己評価のスコアリングガイドを基準にしてください。※自己評価Ⅰの採点欄の平均点ではありません。

(6) 自己評価書提出について

ア 自己評価Ⅰ

本要領に従い、事前計画を記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記して、**事業終了後２週間以内に、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします（P.8「５．自己評価書の作成・提出（１）」）**をご参照ください。）
※自己評価の評価過程、参加者等の記録（議事録等）を併せて添付・ご提出ください。

なお、作成した自己評価書は、「補助事業の完了報告書」に併せ、紙面でもご提出ください。

イ 自己評価Ⅱ

本要領に従い、事前計画、自己評価Ⅰを記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に平成２５年２月末の現況を追記して、**平成２５年３月末までに、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします。（P.9「５．自己評価書の作成・提出（２）」**をご参照ください。）

※自己評価の評価過程、参加者等の記録（議事録等）を併せて添付・ご提出ください。

【自己評価のスコアリングガイド 2/2】

C 補助事業によりもたらされた成果の広報	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、外部の大きな反響または高い評価を受けた。（表彰、専門誌・新聞等に取り上げられるなど）
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
C JKA の競輪・オートレース補助金で実施された事業であることの広報	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、計画外の自らのオリジナルな手法で広報を実施、または外部機関（新聞等）に大きく取り上げられた。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
D 自己評価の実施体制	5	外部委員が参加する評価委員会で評価が実施された。また、記録（議事録）から評価過程等が確認できる。
	4	団体内部に組織された評価委員会（外部委員の参加なし）で評価が実施された。また、記録（議事録）から評価過程等が確認できる。
	3	委員会形式ではないが自らの事務局内部に組織上の評価体制があり、また、記録（議事録）から同体制で実施された評価過程等が確認できる。
	2	本事業の担当者が単独で評価し、団体責任者が決裁するなど、評価について議論する場が設定されていないが、評価過程等が記録で確認できる。
	1	担当者のみで評価した。または、議事録など、評価の実施過程等を示す記録が示すものがない。
総合評価	5	全体として極めて高いレベルの事業であった。
	4	全体として比較的高いレベルの事業であった。
	3	一部に不十分な水準の内容があり、今後の課題となるが、全体としてはほぼ問題のないレベルの事業であった。
	2	全体として不十分なレベルの事業であり、いくつもの課題が残った。
	1	全体として極めて不十分なレベルの事業であり、根本的な見直しが必要である。

Ⅲ 事前計画の作成にあたって

事前計画の作成の注意事項（１）

補助事業の事前計画を、右ページの様式の記入ガイドライン(噴出し部分)、記入例等を参考に作成してください。（P4「2. 事前計画について」も併せてご参照ください。）

※ 事前計画／自己評価書の様式は、A3横版の2枚構成になっています。

(1) 事前計画は、補助金交付内定通知 別紙「事業計画書」の3. 補助事業計画（2）内容欄に
列挙された項目（事業）毎に作成してください。

(2) 様式は、必ず本財団ホームページからダウンロードしたものをご使用ください。

ア 事前計画で記入する箇所は、白抜きの太枠で囲まれた欄のみです。

イ 簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するとともに、専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用するようにしてください。

ウ 要望時から計画に変更のない事業は「補助金交付要望時」の列に記入してください。査定結果で事業内容に変更が生じた事業は、要望時の計画を「補助金交付要望時」の列に記入し、さらに、変更箇所のみを隣の「計画変更時」の列に記入してください。

エ 「指標」と「目標値」は、必ずご記入ください。（P.5・P.6もご参照ください。）

① 指標、目標値欄が設定された評価項目

「自己評価」で達成率（達成状況）を計算していただきますので、数値で表現した指標と目標値を必ず1セット以上設定してください。

② 指標、目標値欄の設定がない評価項目

できるだけ数値で表現できる指標と目標を設定し、ご記入ください。

（数値表現が難しい場合は、数値以外の指標と目標を設定するよう努めてください。）

③ 指標、目標値の設定にあたっては、必ずその設定根拠を具体的な内容欄に記入してください。

【右ページの丸付き数字の欄は以下のとおり記入してください。】

① 事業項目が複数ある事業の幾つ目の事業で総項目数はいくつか。

② 内定通知書に記載された整理番号。

③ 要望時から補助事業者名の変更があるときは名称変更欄へ旧名称を記入。

④ 内定通知書に記載された事業名。

⑤ ①の項番に該当する項目名。

⑥ 該当する文字を残す。（該当しない文字は削除する。）

⑦ 補助事業として何年計画事業の今年が何年目になるか。

⑧ 要望書提出時のそれぞれの金額を記入。

⑨ 内定通知書別紙「事業経費明細」の補助率を記入。

平成23

事前計画 記入例 記入のガイドライン(1)

検診車

該当しない文字を削除してください。

① 項番 1 / 総項目数 2

② 整理番号 23-1-000

補助事業者名 ③	(財)〇〇保健協会	事業項目名 ⑤				⑥ 託の有無 ⑥ 託・無	委託比率 (50%以上)	有・無	補助金(千円)		⑧ 補助対象経費総額(千円)		補助率
名称 変更		事業形態	G	(⑥ 規・継続	⑦	年目 / 年計画	交付要望額	1,850	要望時	3,700	⑨
補助事業名 ④	平成23年度検診車の整備補助事業	事業コード				各事業区分のチェックポイントに			交付決定額(a)	交付決定時		1/2	
		事業コード				公益目的事業の種類	事業区分	・沿っている (最終	数字は全て半角で入力してください。①④⑤ 千円未満は切捨ててください。⑤			
									決算額				

【社会的課題と補助事業の関係 流れ図】

1.社会的課題（補助事業で改善・解決等を目指す社会的課題の現状と目指す姿を記入してください）

社会的課題 (最終目的)	現 状	〇〇県東部地区において、住民検診の多くを当協会が行っているが、車両の経年劣化や保有台数などの問題があり、現状では十分な検診ができていない。
	目指す姿	疾病の早期発見、早期対応により、県民の健康の保持及び増進を計る。

補助事業の目的達成により、社会的課題の適切な対応、改善、解消、解決を図り、「目指す姿」を実現する。

2.補助事業の設計・評価（社会的課題の改善・解決等に資する補助事業を設計し、事業終了後に自ら事業を評価してください）

(1) 補助事業で達成を目指す、目的の達成後の姿

補助事業 の目的 (中間目的)	検診の精度、安全性の向上により、受診者の肺がん、肺結核および胃がんの予防、疾病の早期発見に寄与する
-----------------------	---

補助事業の成果・波及効果により、目的達成を図る。

(2) 補助事業の事前計画

評価項目				事前計画 補助金 交付要望時 作成者() [平成 年 月 日]				計画変更時(最終計画) 作成者() [平成 年 月 日]				自己評価Ⅰ 補助事業終了時作成 作成者() [平成 年 月 日]				自己評価Ⅱ 平成25年3月に作成 作成者() [平成 年 月 日]			
				具体的な内容								分析・解釈・価値判断							
A	受益者	対象者	〇〇県東部地区の市町村における地域検診、職域検診の受診者				この事業により利益を受ける人または組織 直接的に受ける人(組織)と間接的に受ける人(組織)が分けられるときは 分けて記入してください。												
		ニーズ	〇〇県東部地区の市町村における地域検診、職域検診の受診者				本事業が必要とされている状況を具体的に記入してください。												
	具体的内容			・最新鋭の胃胸部併用X線テレビ検診車の導入により、新たな受診者、団体の開拓や、精度の向上、検診における安全性の確保などの効果をもたらす。 ・現在、各種検診車(胸部・胃部・循環器・子宮・乳がん)を保有しているが、胃胸部検診車は経年劣化が著しく、精度や安全性の確保において不安があり、また機器、車両の故障で、検診を途中で中止せざるを得ない場合もある。 新たに検診車両を購入し、運用計画を実施することにより、安全かつ確実な遂行で、受診者への負担、迷惑の軽減とともに、新規受診者の受診も可能となる。				受益者のニーズに応え、補助事業の目的を達成する為に行う事業の内容を具体的に記入してください。											
	実施計画			【車両導入】 ・車両導入委員会を設置、 車種決定～業者決定(一般競争入札を予定／5月)、契約(5月)、運用計画の設定(5～8月)、納品(9月)、検収(9～10月)、運用開始(11月)のスケジュールで実施する。 【車両導入後】 ・新運用計画をたて車両の運用を開始する。 検診業務は3人体制で行う。1ヶ月の稼働日数は22日、受診人数を2,900人(胃胸部)。 ・車両点検については、検診時の通常点検に加え、車両導入委員会と車両業者、機器メーカー合同で、年3回(6月、10月、2月)の車両点検を実施する。				事業の実施計画を具体的に記入してください。 【車両導入計画】準備から導入までのスケジュール管理 【車両導入後の運用計画等】導入後の運用計画と管理計画											
	実施体制			【車両導入】 当協会規定により、車両導入委員会組織し、設置。委員会により車種の選定～納品、運用計画～実施を行う。 委員会は、当協会の事務局長を委員長とし、技術担当、総務担当、センター長、健康増進部からの代表による12名で構成される。 【車両導入後】 車両導入委員会と車両業者、機器メーカー合同で、年3回(6月、10月、2月)の車両点検を実施する				事業の実施体制について、以下の項目を記入してください。 【車両導入の実施体制】事業を実施するメンバー構成、責任者と役割分担 【車両導入後の実施体制】導入後の運用の実施体制と管理の実施体制											
B	目標	事業の実施結果	指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容	達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断								
		事業の成果・波及	①車両の稼働率 ②受診者数	①20日/月 ②2,900人/月	①土日祝日は当協会が休みであるが、それ以外を稼働日とする。 ②旧車両は機器、車両での故障等で検診を中止する事があり、月平均で換算すると10%は中止していた計算になる。1月の受診人数は胸部1380人、胃部1240人であったため約10%増の胸部1500人、胃部1400人を目標値に設定。			補助事業終了後から一定期間経過後(平成25年2月末まで)に達成を目指す成果目標を定めてください。 【指標】波及した成果を測定することができる指標を記入してください。 【目標値】具体的な目標数値を記入してください。 【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。 ○成果の利活用について、補助事業で得られた成果をどのように活用するか記入してください。											

(2) 補助事業の事前計画

評価項目		事前計画						自己評価				
		補助金 交付要望時			計画変更時(最終計画)			自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ		
		指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容	達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断	採点	
C 広報	補助事業によりもたらされた成果の広報	①ホームページ更新回数	2回	当協会HPにおいて、補助事業の内容と実施計画に関する状況などを月2回、写真入りで更新する。								
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	会報誌掲載数	1回	当協会発行の「ウェルネス〇〇」(部数:10000部)において、検診車導入のお知らせと、運用計画の実施予定、車両紹介等の記事を掲載する。								
	JKAの競輪・オートレース補助金で実施された事業であることの広報	①ホームページ	①2回/年	当協会HPの本事業更新頁に補助事業である旨を年間にわたってトップバナーに掲載する								
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	会報誌	3回	会報誌への記事掲載時に、本事業が補助によるものという紹介を行う。								
D 自己評価の体制		具体的な内容			具体的な内容			分析・解釈・価値判断				採点
		車両導入委員会(12名)に加え、予防医学学会員、県健康部職員、地域保健課等の外部委員で構成される本事業評価委員会を設置。 車両納品時および年度末に評価委員会を開催し、評価を決定する。			事業の自己評価体制について、以下の項目を記入してください。 ○評価を実施する体制(メンバー構成など)、責任者 ○評価の具体的な方法、手順 ○構成に第三者(外部委員など)が入るのであればその旨記入してください。 ○自己評価結果の公表方法 ※詳細は、スコアリングガイドを参照。							

(4) 補助事業の総括Ⅰ(自己評価Ⅰ:補助事業終了時) 作成者() [平成 年 月 日]

補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

①採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください)

総合評価

②総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目についてご記入ください)

今回の事業で、優れていると評価できる点	今回の事業の課題・改善すべきと思われる点
事業全体の総括的感想	事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アピールしたい点等(あれば)

(5) 補助事業の総括Ⅱ(自己評価Ⅱ:平成25年2月末までの状況) 作成者() [平成 年 月 日]

平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。

○事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標)、社会的課題(最終目標)の達成状況	
------------------------------	--

事前計画の作成の注意事項（２）

（３）事前計画の提出

事前計画は、本要領に従い、ご記入の上、補助事業交付申請時に紙面（モノクロプリント）で補助金交付申請書に添付しご提出ください。

※紙面でのご提出と併せて、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へもメールにてご提出をお願いします。

※メール提出方法は、（P.6「３．事前計画の作成・提出」）をご参照ください。

補助事業の表示・公表について（重要）

当該事業が補助事業であることの表示と、補助事業の実施内容と成果の公表が行われない場合、あるいは不十分な場合は、公益規程第 30 条の定めにより、補助金の全部又は一部の交付の決定を取り消す場合がありますので、表示・公表を徹底してください。また、十分なPRに務めてください。

（本財団では、証左となる写真、印刷物、映像・音声データ等のご提出を求めます。）

○補助事業を実施する場合には、補助事業である旨の表示

「JKA の競輪・オートレースの補助金で実施された事業」であることが、補助事業に接する一般の方にご認識いただけることがポイントです。（標識の表示等）

○「JKA の競輪・オートレースの補助金で実施された事業」であることの公表

「JKA の競輪・オートレースの補助金で事業を実施したこと」を、広く社会一般にお知らせすることがポイントです。（市報への掲載等）

※表示等の詳細は、補助要領をご参照ください。

IV 自己評価書の作成にあたって

自己評価書の作成の注意事項（１）

自己評価を、右ページの様式の記入ガイドライン（噴出し部分）と記入例等を参考に、提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記（採点欄のある評価項目は、自己評価のスコアリングガイドを基準に採点・記入）し、提出してください。（P.7「4. 自己評価について」）も併せてご参照ください。

※ 事前計画／自己評価書の様式は、A 3 横版の 2 枚構成になっています。

(1) 自己評価は、採点も含め、評価委員会等の自己評価体制の合意のもとで実施してください。

※評価にあたっては、議事録等を作成し評価過程を記録してください。

(2) 簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するとともに、専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用するようにしてください。

(3) 記入箇所と提出期限

① 1 回目（自己評価Ⅰと補助事業の総括Ⅰ）

右ページ「記入例」では太枠で囲まれた欄（ダウンロード上は青色に彩色された欄）です。

② 2 回目（自己評価Ⅱと補助事業の総括Ⅱ）

右ページでは角丸二重枠で囲まれた欄（ダウンロード上はピンク色に彩色された欄）です。

(4) 非数値の指標と目標値の達成状況

評価項目により、非数値の指標と目標を設定した場合でも、その達成状況を必ずご記入ください。

【自己評価のスコアリングガイド 1/2】

A 受益者	5	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。また加えて、想定した受益者を超えて、補助事業の効果が大きな広がりを見せている。
	4	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。
	3	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、一部変更はあるものの当該受益者のニーズにはほぼ沿った事業を実施することができた。
	2	受益対象者、ニーズの想定の一部に誤りがあり、計画変更が必要であった。または、受益対象者、ニーズの想定は適切であったものの、計画に問題があり当該受益者のニーズに対応するために、大幅な計画変更が必要であった。
	1	受益対象者、ニーズの想定に大きな誤りがあった。または、受益対象者、ニーズの想定に誤りがなかったものの、本事業の内容との齟齬が大きく、計画変更を行っても当該受益者のニーズに対応することができなかった。
A 実施計画及び実施体制	5	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画（実施手法・スケジュール・コスト・体制）であった。また、実施過程における更なる創意工夫により、スケジュール面、コスト面等で事前計画を超える事業を実施することができた。
	4	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画（実施手法・スケジュール・コスト・体制）であった。また、事前計画通りに円滑、効果的かつ効率的に事業を実施できた。
	3	事前計画の実施手法、実施体制で若干不十分な部分があり、修正が必要であったが、ほぼ支障なく事業を実施できた。
	2	事前計画に不十分な部分（実施手法・スケジュール・コスト・体制）があり、コストの増加、スケジュールの遅延等で計画変更を余儀なくされた。
	1	事前計画またはその実施過程に問題があり、コストの大幅な増加（事前計画の 50%以上の増加）またはスケジュールの大幅な遅延（事業の完了が平成 24 年 3 月 31 日を越える）が生じた。
B 事業の実施結果	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
B 事業実施の成果・波及	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、想定外の成果の波及効果があった。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、想定外の成果の波及効果があった。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、想定外の成果の波及効果があった。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または達成値が明確でなく達成状況が判定できない。

補助事業者名	(財)〇〇保健協会	事業項目名					委託の有無	有・無	委託比率 (50%以上)	有・無	経費総額(千円)		補助率			
名称 変更		事業形態	G ()				新規・継続	年目 / 年計画			交付要望額	1,850	3,700	1/2		
補助事業名	平成23年度検診車の整備補助事業	事業コード			公益目的事業の種類		事業区分			各事業区分のチェックポイントに		交付決定額(a)	1,850		交付決定時	3,700
										・沿っている	・沿っていない項目がある	最終予算額	1,800		執行率 (b/a)	97.3%
										()	決算額 (b)	1,800				

【社会的課題と補助事業の関係 流れ図】

1.社会的課題（補助事業で改善・解決等を目指す社会的課題の現状と目指す姿を記入してください）

社会的課題 (最終目的)	現 状	地域との交流経験が不足しているため、地域への関心が薄い子どもたちが増えている。
	目 指 す 姿	子供たちが地域特産物の生産に従事している大人との交流を通じ地域への関心を高めたい。

補助事業の目的達成により、社会的課題の適切な対応、改善、解消、解決を図り、「目指す姿」を実現する。

2.補助事業の設計・評価（社会的課題の改善・解決等に資する補助事業を設計し、事業終了後に自ら事業を評価してください）

(1) 補助事業で達成を目指す、目的の達成後の姿

補助事業 の目的 (中間目的)	・地場産業に関する学習や体験をおこなうことで、地域の理解を深める
-----------------------	----------------------------------

補助事業の成果・波及効果により、目的達成を図る。

※社会的課題と補助事業の関係（なぜこの補助事業を計画し、実施する必要があるのか？）

- 補助事業は、様々な「社会的課題」を見据え、その対応、改善、解消、解決を目指す、
(1) 補助事業の設計
「社会的課題」の把握 ⇒ (改善・解決のための手法決定) ⇒ 達成「目的」の設定 ⇒ 「目的」達成のため「補助事業」を計画
(2) 補助事業の実施
「補助事業」の実施 ⇒ 「補助事業」の実施結果 ⇒ 「補助事業」の成果(改善効果) ⇒ 「目的」の達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等
- 左記に「社会的課題と補助事業の関係」を示す「流れ図」を掲げましたので、事前計画とともに内容を記入し、流れ図を完成してください。
- 補助事業の設計と実施にあたっては、この「流れ図」と自らの補助事業を対比し、計画は明確な「目的」、「成果」、「結果」、「内容」が設定され、「社会的課題」の改善・解決等に資するものであるか(流れを合理的に説明できるか)を、常に検証してください。
- また、補助事業実施の効果等を客観的に把握し今後の改善につなげるため、各評価項目の達成度を検証する「指標」(達成指標)と「目標値」を計画段階でこの「事前計画／自己評価書」で明示し、事業実施後に各評価項目の「指標」の達成度を検証し、事業を評価することが重要です。

枠内は補助事業終了後に作成してください。枠内は平成25年2月までの状況を同年2月に作成してください。

作成者名、作成日(半角)を入力してください。
2ページ目には自動的に反映されます。

(2) 補助事業の事前計画

評価項目		事前計画										(3) 補助事業の自己評価（自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ）				
		補助金	交付要望時	作成者()	[平成 年 月 日]	計画変更時(最終計画)	作成者()	[平成 年 月 日]	自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ		自己評価Ⅲ			
		具体的な内容						具体的な内容						分析・解釈・価値判断		採点
A 事業内容	受益者	対象者	〇〇県東部地区の市町村における地域検診、職域検診の受診者										最新車両の導入。検診の実施には至っていないが検診回数の増加、検診時間の短縮、安全性の向上などが図られ、受診者のニーズに応えられた。		4	
	受益者	ニーズ	〇〇県東部地区における住民の健康増進のため、より精度が高く安全性があり効率の良い検診の実施を希望している。													
	具体的内容		・最新鋭の胃胸部併用X線テレビ検診車の導入により、新たな受診者、団体の開拓や、精度の向上、検診における安全性の確保などの効果をもたらす。 ・現在、各種検診車(胸部・胃部・循環器・子宮・乳がん)を保有しているが、胃胸部検診車は経年劣化が著しく、精度や安全性の確保において不安があり、また機器、車両の故障で、検診を途中で中止せざるを得ない場合もある。 新たに検診車両を購入し、運用計画を実施することにより、安全かつ効率の良い検診が可能となる。										〇狙い通りの対象者(ターゲット)に事業を実施できたか。出来なかった場合、想定と異なった場合には、その理由を記入してください。 〇受益者のニーズに沿った事業となっていたか。またできなかった場合、その理由を記入してください。			
		実施計画	【車両導入】 ・車両導入委員会を設置、 車種決定～業者決定(一般競争入札を予定／5月)、契約(5月)、 開始(11月)のスケジュールで実施する。 【車両導入後】 ・新運用計画をたて車両の運用を開始する。 稼働日数は22日、受診人数は1,500人、検診台数は10台、検診時間は10時間、検診費用は10万円、検診車両の導入により、検診の効率化が図られ、検診時間の短縮、安全性の向上などが図られ、受診者のニーズに応えられた。	【車両導入】 〇事前計画通りに事業を実施出来たか。事前計画は妥当であったか。計画どおりできなかった場合には、その理由を記入してください。 〇費用に合う成果をあげる事が出来たか。予算は適切であったか。また予算と実績が異なる場合には、その理由を記入してください。 〇効率的に事業を実施出来たか。また出来なかった場合には、その理由を記入してください。 【車両導入後の運用計画】 〇事前計画通りに事業を実施出来ているか。出来ていない場合には、その理由を記入してください。										【車両導入】 ・入札の結果、委員会が希望する車種をほぼ予算額で入札し、契約(5/30)。新運用計画を9月に決定し、新運用計画の開始が11/1となり、納品～検収を10月20日に終え、予定通りに運用を開始した。一般競争入札を行った事により予算減で購入出来た。車両導入委員会を設置したことで、効率的に行う事が出来た。 【車両導入後】 ・車両点検については、検診時の通常点検に加え、車両導入委員会と車両業者、機器メーカー合同で、年3回(6月、10月、2月)の車両点検を実施する予定である。1回目の点検となる2月の日程を調整中である。 ・新運用計画をたて運用を開始している。来年3月まで予定をたてている。1ヶ月の稼働日数は年末年始の休日が入ってしまう為19日となっている。		4
B 目標	事業の実施結果	指標	目標値	具体的な内容						達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断		採点		
	事業の成果・波及	①車両の稼働率 ②受診者数	①20日/月 ②2,900人/月	①土日祝日は当協会が ②旧車両は機器、車両の いた計算になる。1月の 胃部1400人を目標値に						①22日/月 ②3,000人/月	①110% ②103%	①年間での稼働率は月平均22日であった。 ②最新車両による安全化と精度が向上したため、受診への参加者数が増え、目標値を上回る達成値を実現した。胸部1500名、胃部1500名であった。		4		

記入のガイドライン

【達成値】設置台数などの具体的な達成値を記入してください。
【達成状況】目標値に対する達成率を%で記入してください。
【分析・解釈・価値判断】事前計画時の目標値・指標の設定は適切であったのか。目標達成、未達成の原因を分析して、記入してください。

【達成値】具体的な達成値を記入してください。
【達成状況】目標値に対する達成率を%で記入してください。
【分析・解釈・価値判断】事前計画時の目標値・指標の設定は適切であったのか。目標達成、未達成の原因を分析して、記入してください。

スコアリングガイドの達成率を計算する時は、評価項目欄毎の複数の達成状況の平均で当てはめてください。(この例ですと 110.5%)

自己評価のスコアリングガイドの基準に沿って採点してください。

(2) 補助事業の事前計画

評価項目		事前計画						自己評価				
		補助金 交付要望時			計画変更時(最終計画)			自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ		
		指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容	達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断	採点	
C 広報	補助事業によりもたらされた成果の広報	ホームページ更新回数	2回	当協会HPIにおいて、補助事業の進捗状況や新運用計画の発表、車両紹介など月平均2回の更新を実施した。				2回/月	100%	4月以降、本事業の計画をHPIに掲載し、進展状況や新運用計画の発表、車両紹介など月平均2回の更新を実施した。	5	
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	会報誌掲載数	1回	当協会発行の「ウェルネス」に、補助事業の進捗状況や新運用計画の発表、車両紹介などの記事を掲載した。				1回	100%	会報誌車両紹介、運用計画の記事を掲載した。	4	
	JKAの競輪・オートレースなどで実施した事業での広報			当協会のHPにおいて、補助事業の進捗状況や新運用計画の発表、車両紹介など月平均2回の更新を実施した。				2回/年	100%	本事業紹介頁に補助金の紹介をトップバナーに記載し(年間)、さらに5月、10月更新分にて、JKA補助事業の紹介を行った。	5	
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	会報誌	3回	会報誌への記事掲載時に、補助事業の進捗状況や新運用計画の発表、車両紹介などの記事を掲載した。				1回	100%	会報誌の各記事に補助事業である旨を掲載した。	4	
D 自己評価の体制				当協会のHPにおいて、補助事業の進捗状況や新運用計画の発表、車両紹介など月平均2回の更新を実施した。						分析・解釈・価値判断	採点	
		車両導入委員会(12名)に加え、予防医学学会員、県健康部職員、地産地消推進員、車両納品時および年度末に評価委員会を開催し、評価を決定する。		当協会のHPにおいて、補助事業の進捗状況や新運用計画の発表、車両紹介など月平均2回の更新を実施した。						評価委員会(車両導入委員会12名+予防医学学会代表1名、県健康課職員1名、地域保健機関職員4名、計18名)を、車両導入直後(11/11)に開催し、本事業への評価を決定した。委員会を実施した評価内容については、議事録と事業評価報告書を団体のホームページに公開している。	5	

(4) 補助事業の総括Ⅰ(自己評価Ⅰ:補助事業終了時) 作成者() [平成 年 月 日]

補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

①採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください)

総合評価

4

採点欄の平均ではありません。自己評価のスコアリングガイド【総合評価】に沿って採点してください。

②総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目についてご記入ください)

今回の事業で、優れていると評価できる点	【実績】 ・事業計画通りに、車両を導入し、新運用計画のもと実施できた 【理由】 ・事前計画及び車両導入委員会が役割を果たせたことが大きい。各種調整、決定あたっては各委員からの意見を反映させることができた。 ・最新車両への期待の大きさは、以前の検診への不満があったことでもあり、本事業においてニーズを充たせたことが成果につながった。	今回の事業の課題・改善すべきと思われる点	【課題】 本事業における車両導入委員会機能の継続的な活用。 【改善策】 今回の事業実施にあたり運営体制の整備し、部署横断的な委員会を設置した。その結果、従来は検診事業担当部署まかせになっていた検診車の運用について、見直しを図った。今後は検診車の運用管理だけでなく、他事業についても横断的な委員会を活用し運営の改善に取り組んでいきたい。
事業全体の総括的感想	過去の検診車導入時に比べ、本事業は計画通りに実施でき、想定された以上の成果を発揮できた。本事例の成果を今後の検診事業及び本協会運営に反映し、より求められるニーズへ応えられる体制づくりを強化したい。	事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アピールしたい点等(あれば)	受診者の最新車両への期待感が大きく、運用面、経済面での課題は少なくないが、車両整備の効果がもたらす精度向上を今後も目指して行きたい。

(5) 補助事業の総括Ⅱ(自己評価Ⅱ:平成25年2月末までの状況) 作成者() [平成 年 月 日]

平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。

○事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標)、社会的課題(最終目標)の達成状況	・事業の目的 検診事業では本事業の成果は大きく、新運用計画のもと継続している。一定期間経過後も、日常点検体制の強化を行ない、成果の維持・管理につとめている。 ・最終目標 〇〇県東部地区における検診の増加、受診者の増加で得られた結果を分析し、疾病の予防、早期発見の改善データを集計中である。得られた結果を研究発表会で報告すると共に当協会の普及啓発事業にもつなげていく予定である。
------------------------------	---

自己評価書の作成の注意事項（２）

- (5) 補助事業の総括Ⅰの総合評価欄の採点も自己評価のスコアリングガイドを基準にしてください。※自己評価Ⅰの採点欄の平均点ではありません。
- (6) 自己評価書提出について

ア 自己評価Ⅰ

本要領に従い、事前計画を記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記して、**事業終了後２週間以内に、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします（P.8「５．自己評価書の作成・提出（１）」）**をご参照ください。）

※自己評価の評価過程、参加者等の記録（議事録等）を併せて添付・ご提出ください。

なお、作成した自己評価書は、「補助事業の完了報告書」に併せ、紙面でもご提出ください。

イ 自己評価Ⅱ

本要領に従い、事前計画、自己評価Ⅰを記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に平成２５年２月末の現況を追記して、**平成２５年３月末までに、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします。**

（P.9「５．自己評価書の作成・提出（２）」をご参照ください。）

※自己評価の評価過程、参加者等の記録（議事録等）を併せて添付・ご提出ください。

【自己評価のスコアリングガイド 2/2】

C 補助事業によりもたらされた成果の広報	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、外部の大きな反響または高い評価を受けた。（表彰、専門誌・新聞等に取り上げられるなど）
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
C JKA の競輪・オートレース補助金で実施された事業であることの広報	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、計画外の自らのオリジナルな手法で広報を実施、または外部機関（新聞等）に大きく取り上げられた。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
D 自己評価の実施体制	5	外部委員が参加する評価委員会で評価が実施された。また、記録（議事録）から評価過程等が確認できる。
	4	団体内部に組織された評価委員会（外部委員の参加なし）で評価が実施された。また、記録（議事録）から評価過程等が確認できる。
	3	委員会形式ではないが自らの事務局内部に組織上の評価体制があり、また、記録（議事録）から同体制で実施された評価過程等が確認できる。
	2	本事業の担当者が単独で評価し、団体責任者が決裁するなど、評価について議論する場が設定されていないが、評価過程等が記録で確認できる。
	1	担当者のみで評価した。または、議事録など、評価の実施過程等を示す記録が示すものがない。
総合評価	5	全体として極めて高いレベルの事業であった。
	4	全体として比較的高いレベルの事業であった。
	3	一部に不十分な水準の内容があり、今後の課題となるが、全体としてはほぼ問題のないレベルの事業であった。
	2	全体として不十分なレベルの事業であり、いくつかの課題が残った。
	1	全体として極めて不十分なレベルの事業であり、根本的な見直しが必要である。

Ⅲ 事前計画の作成にあたって**事前計画の作成の注意事項（１）**

補助事業の事前計画を、右ページの様式の記入ガイドライン(噴出し部分)、記入例等を参考に作成してください。（P4「2. 事前計画について」も併せてご参照ください。）

※ 事前計画／自己評価書の様式は、A3横版の2枚構成になっています。

(1) 事前計画は、補助金交付内定通知 別紙「事業計画書」の3. 補助事業計画（2）内容欄に
列挙された項目（事業）毎に作成してください。

(2) 様式は、必ず本財団ホームページからダウンロードしたものをご使用ください。

ア 事前計画で記入する箇所は、白抜きの太枠で囲まれた欄のみです。

イ 簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するとともに、専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用するようにしてください。

ウ 要望時から計画に変更のない事業は「補助金交付要望時」の列に記入してください。査定結果で事業内容に変更が生じた事業は、要望時の計画を「補助金交付要望時」の列に記入し、さらに、変更箇所のみを隣の「計画変更時」の列に記入してください。

エ 「指標」と「目標値」は、必ずご記入ください。（P.5・P.6もご参照ください。）

① 指標、目標値欄が設定された評価項目

「自己評価」で達成率（達成状況）を計算していただきますので、数値で表現した指標と目標値を必ず1セット以上設定してください。

② 指標、目標値欄の設定がない評価項目

できるだけ数値で表現できる指標と目標を設定し、ご記入ください。

（数値表現が難しい場合は、数値以外の指標と目標を設定するよう努めてください。）

③ 指標、目標値の設定にあたっては、必ずその設定根拠を具体的な内容欄に記入してください。

【右ページの丸付き数字の欄は以下のとおり記入してください。】

- ① 事業項目が複数ある事業の幾つ目の事業で総項目数はいくつか。
- ② 内定通知書に記載された整理番号。
- ③ 要望時から補助事業者名の変更があるときは名称変更欄へ旧名称を記入。
- ④ 内定通知書に記載された事業名。
- ⑤ ①の項番に該当する項目名。
- ⑥ 該当する文字を残す。（該当しない文字は削除する。）
- ⑦ 補助事業として何年計画事業の今年が何年目になるか。
- ⑧ 要望書提出時のそれぞれの金額を記入。
- ⑨ 内定通知書別紙「事業経費明細」の補助率を記入。

平成23

事前計画 記入例 記入のガイドライン(1)

福祉機器

①

項番

1

/

総項目数

2

②

整理番号

23-2-000

補助事業者名 ③	(福)XXXXXX福祉会	事業項目名 ⑤				委託の有無 ⑥	無	委託比率 (50%以上) ⑥	無	補助金(千円) ⑧		補助対象経費総額(千円) ⑧		補助率 ⑨
	名称変更	事業形態 G ()	事業コード	公益目的事業の種類	事業区分	⑥	新規	⑦	1年目 / 1年計画	交付要望額	5,625	要望時	7,500	3/4
補助事業名 ④	平成23年度 機器の整備 補助事業					各事業区分のチェックポイントに ・沿っている ()			沿っていない項目がある			交付決定額(a)	交付決定時	
決算額														

数字は全て半角で入力してください。①④⑤
千円未満は切捨ててください。⑤

【社会的課題と補助事業の関係 流れ図】

1.社会的課題（補助事業で改善・解決等を目指す社会的課題の現状と目指す姿を記入してください）

社会的課題 (最終目的)	現 状	福祉作業所に就労する障害者(以下、利用者)にとって、十分な施設環境がないため、スキルアップの機会が少なく、また工賃もかなり低いままに据え置かれている
	目指す姿	障害がある人もない人も、能力や必要に応じた社会参加が可能で、自立した生活を営むことができる社会の実現

補助事業の目的達成により、社会的課題の適切な対応、改善、解消、解決を図り、「目指す姿」を実現する。

2.補助事業の設計・評価（社会的課題の改善・解決等に資する補助事業を設計し、事業終了後に自ら事業を評価してください）

(1) 補助事業で達成を目指す、目的の達成後の姿

補助事業の目的 (中間目的)	・本事業で導入する機器によって、利用者のスキルアップを目指す ・地元特産品と組み合わせた新商品を開発し、事業収入アップを図ることで、利用者の工賃アップを実現する
-------------------	---

補助事業の成果・波及効果により、目的達成を図る。

(2) 補助事業の事前計画

評価項目		事前計画				自己評価Ⅰ				自己評価Ⅱ				自己評価Ⅲ	
		補助金	交付要望時	作成者() [平成 年 月 日]	計画変更時(最終計画)	作成者() [平成 年 月 日]	作成者() [平成 年 月 日]			作成者() [平成 年 月 日]			平成25年3月に作成		
		具体的な内容				分析・解釈・価値判断				採点					
A 事業内容	受益者	対象者	本法人の障害者就労支援施設および利用者(48名)・〇〇物産株式会社(地域の土産物製造・販売)他、地域の土産物販売店				この事業により利益を受ける人または組織 直接的に受ける人(組織)と間接的に受ける人(組織)が分けられるときは 分けて記入してください。								
		ニーズ	・現在、当法人施設では製菓づくりの一部業務(包装)のみを行っているが、より幅広い就労支援が望まれている。 ・地域の土産物販売店(複数社)から、当施設での製菓製造の要望があり、実現できれば利用者のスキルアップ、工賃アップへとつながる。				本事業が必要とされている状況を具体的に記入してください。								
	具体的内容	当法人の障害者就労支援施設「ふれあいの森」に製菓製造機器(煎餅焼機)を導入する。				受益者のニーズに応え、補助事業の目的を達成する為に行う事業の内容を具体的に記入してください。									
		実施計画	[煎餅焼機の導入計画] 4～5月 機器選定 業者選定の入札内容検討 6月 業者決定 売買契約締結 導入打ち合わせ 7月 機器納品・検収 [導入後の運用計画] 地域の販売会社との共同で地元特産品である海苔などの海産物を煎餅生地と合わせた新商品を開発し薄焼き煎餅を製造する。 7月～8月 機器稼働開始後 製菓製造スタッフ研修／商品開発スタッフ研修 製造チームと開発チームを編成 製造チーム 薄焼き煎餅の製造開始(製造担当利用者の養成) 開発チーム 新商品の開発開始(平成24年1月販売開始)				事業の実施計画を具体的に記入してください。 【機器導入計画】準備から導入までのスケジュール管理 【機器導入後の運用計画等】導入後の運用計画と管理計画								
B 目標	事業の実施結果	[導入までの実施体制] 当法人役員と施設スタッフによって実施する。毎週のスタッフ会議、毎月の役員会議にて進捗状況を報告し、確認する。 [導入後の実施体制] 製菓製造担当と製品開発担当のスタッフを養成し、担当を中心とした利用者チームをつくり、製造、開発を実施する。				事業の実施体制について、以下の項目を記入してください。 【機器導入の実施体制】事業を実施するメンバー構成、責任者と役割分担 【機器導入後の実施体制】導入後の運用の実施体制と管理の実施体制									
		指標	目標値	具体的な内容		指標	目標値	具体的な内容		達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断		採点	
B 目標	事業の成果・波及	製菓製造機器の稼働開始時期	8月	実施計画通りに機器を決定、導入し、8月に稼働を開始する		事業の実施結果の目標を定めてください。 【指標・目標値】例 検診車両の導入数・1台 等 【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。									
		①製造担当者の(利用者)の養成数 ②新商品の開発(種類) ③商品の売上高 ④利用者の工賃	①20名 ②5種類 ③50万円 ④3.9万円	①機器導入後、20名の利用者を対象に製造技術を習得させる。 ②地域販売店からの要望に対応し、新商品を開発する。5種類を目標値とする。 ③23年度は、試験的に販売を行い、売上高50万円を目標とする。 ④事業収入の増加に伴い、利用者工賃をアップする。初年度は、現状の3.8万円(月額)から3.9万円を目指す。なお、3年後には、地域事業所平均の4.5万円へのアップを目指す。		補助事業終了後から一定期間経過後(平成25年2月末まで)に達成を目指す成果目標を定めてください。 【指標】波及した成果を測定することができる指標を記入してください。 【目標値】具体的な目標数値を記入してください。 【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。 ○成果の利活用について、補助事業で得られた成果をどのように活用するか記入してください。									

※社会的課題と補助事業の関係（なぜこの補助事業を計画し、実施する必要があるのか？）

- 補助事業は、様々な「社会的課題」を見据え、その対応、改善、解消、解決を目指し、計画・設計し、実施するものです。
(1) 補助事業の設計
「社会的課題」の把握 ⇒ (改善・解決のための手法決定) ⇒ 達成「目的」の設定 ⇒ 「目的」達成のため「補助事業」を計画
(2) 補助事業の実施
「補助事業」の実施 ⇒ 「補助事業」の実施結果 ⇒ 「補助事業」の成果(改善効果) ⇒ 「目的」の達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等
- 左記に「社会的課題と補助事業の関係」を示す「流れ図」を掲げましたので、事前計画とともに内容を記入し、流れ図を完成してください。
- 補助事業の設計と実施にあたっては、この「流れ図」と自らの補助事業を対比し、計画は明確な「目的」、「成果」、「結果」、「内容」が設定され、「社会的課題」の改善・解決等に資するものであるか(流れを合理的に説明できるか)を、常に検証してください。
- また、補助事業実施の効果等を客観的に把握し今後の改善につなげるため、各評価項目の達成度を検証する「指標」(達成指標)と「目標値」を計画段階でこの「事前計画／自己評価書」で明示し、事業実施後に各評価項目の「指標」の達成度を検証し、事業を評価することが重要です。

枠内は補助事業終了後に作成してください。 枠内は平成25年2月末までの状況を同年3月に作成してください。

記入のガイドライン

(2) 補助事業の事前計画

評価項目		事前計画						自己評価				
		補助金 交付要望時			計画変更時(最終計画)			自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ		
		作成者() [平成 年 月 日]			作成者() [平成 年 月 日]			作成者() [平成 年 月 日]		作成者() [平成 年 月 日]		
		指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容	達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断		採点
C 広報	補助事業によりもたらされた成果の広報	①当法人HPへの掲載	①1回更新／月	①当法人HPにおける「施設だより」欄のボックスとして本事業の実施計画や導入機器について、月1回以上更新する			<div>【上段】事業開始から事業終了後2週間までの広報計画を記入してください。補助事業であることを貴団体内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。</div> <div>【下段】事業終了後2週間後から25年2月末までの間の広報計画を記入してください。補助事業であることを貴団体内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。</div> <div>【「指標」・目標値(例)】マスメディアの取材回数・2回、業界新聞・雑誌掲載時期・2回 等</div> <div>【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。</div>			記入のガイドライン		
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①地域広報への記事掲載 ②地元紙(誌)への掲載	①1回／年 ②2紙(誌)／年	①市が発行する「静岡市報」に、本事業の記事を掲載する ②「東海新聞」「静岡NEWS」などの地元紙(誌)への記事掲載を依頼する								
	JKAの競輪・オートレース補助金で実施された事業であることの広報	①当法人HPへの掲載	①1回／年	①当法人HP、トップページに本事業がJKAの補助を受けた旨を紹介する記事を掲載する								
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①地域広報への記事掲載 ②地元紙(誌)への掲載	①1回／年 ②2紙(誌)／年	①市が発行する「静岡市報」で本事業の記事を掲載する際に、JKA補助に関する紹介を合わせて行う ②「東海新聞」「静岡NEWS」などの地元紙(誌)への記事掲載時に、JKA補助についての紹介を合わせて行う								
		具体的な内容			具体的な内容			分析・解釈・価値判断				採点
D 自己評価の体制		事業終了時に当法人役員、スタッフ及び外部委員として利用者家族代表で構成される本事業評価会議を開催し、本事業の自己評価を審議し決定する			事業の自己評価体制について、以下の項目を記入してください。 ○評価を実施する体制(メンバー構成など)、責任者 ○評価の具体的な方法、手順 ○構成に第三者(外部委員など)が入るのであればその旨記入してください。 ○自己評価結果の公表方法 ※詳細は、スコアリングガイドを参照。							

(4) 補助事業の総括Ⅰ(自己評価Ⅰ:補助事業終了時) 作成者() [平成 年 月 日]

補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

①採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください)

総合評価

②総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目についてご記入ください)

今回の事業で、優れていると評価できる点	今回の事業の課題・改善すべきと思われる点
事業全体の総括的感想	事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アピールしたい点等(あれば)

(5) 補助事業の総括Ⅱ(自己評価Ⅱ:平成25年2月末までの状況) 作成者() [平成 年 月 日]

平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。

○事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標)、社会的課題(最終目標)の達成状況	
------------------------------	--

事前計画の作成の注意事項（２）

（３）事前計画の提出

事前計画は、本要領に従い、ご記入の上、補助事業交付申請時に紙面（モノクロプリント）で補助金交付申請書に添付しご提出ください。

※紙面でのご提出と併せて、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へもメールにてご提出をお願いします。

※メール提出方法は、（P.6「３．事前計画の作成・提出」）をご参照ください。

補助事業の表示・公表について（重要）

当該事業が補助事業であることの表示と、補助事業の実施内容と成果の公表が行われない場合、あるいは不十分な場合は、公益規程第 30 条の定めにより、補助金の全部又は一部の交付の決定を取り消す場合がありますので、表示・公表を徹底してください。また、十分なPRに務めてください。

（本財団では、証左となる写真、印刷物、映像・音声データ等のご提出を求めます。）

○補助事業を実施する場合には、補助事業である旨の表示

「JKA の競輪・オートレースの補助金で実施された事業」であることが、補助事業に接する一般の方にご認識いただけることがポイントです。（標識の表示等）

○「JKA の競輪・オートレースの補助金で実施された事業」であることの公表

「JKA の競輪・オートレースの補助金で事業を実施したこと」を、広く社会一般にお知らせすることがポイントです。（市報への掲載等）

※表示等の詳細は、補助要領をご参照ください。

IV 自己評価書の作成にあたって

自己評価書の作成の注意事項（１）

自己評価を、右ページの様式の記入ガイドライン（噴出し部分）と記入例等を参考に、提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記（採点欄のある評価項目は、自己評価のスコアリングガイドを基準に採点・記入）し、提出してください。（P.7「4. 自己評価について」）も併せてご参照ください。

※ 事前計画／自己評価書の様式は、A 3 横版の 2 枚構成になっています。

(1) 自己評価は、採点も含め、評価委員会等の自己評価体制の合意のもとで実施してください。

※評価にあたっては、議事録等を作成し評価過程を記録してください。

(2) 簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するとともに、専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用するようにしてください。

(3) 記入箇所と提出期限

① 1 回目（自己評価Ⅰと補助事業の総括Ⅰ）

右ページ「記入例」では太枠で囲まれた欄（ダウンロード上は青色に彩色された欄）です。

② 2 回目（自己評価Ⅱと補助事業の総括Ⅱ）

右ページでは角丸二重枠で囲まれた欄（ダウンロード上はピンク色に彩色された欄）です。

(4) 非数値の指標と目標値の達成状況

評価項目により、非数値の指標と目標を設定した場合でも、その達成状況を必ずご記入ください。

【自己評価のスコアリングガイド 1/2】

A 受益者	5	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。また加えて、想定した受益者を超えて、補助事業の効果が大きな広がりを見せている。
	4	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。
	3	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、一部変更はあるものの当該受益者のニーズにほぼ沿った事業を実施することができた。
	2	受益対象者、ニーズの想定の一部に誤りがあり、計画変更が必要であった。または、受益対象者、ニーズの想定は適切であったものの、計画に問題があり当該受益者のニーズに対応するために、大幅な計画変更が必要であった。
	1	受益対象者、ニーズの想定に大きな誤りがあった。または、受益対象者、ニーズの想定に誤りがなかったものの、本事業の内容との齟齬が大きく、計画変更を行っても当該受益者のニーズに対応することができなかった。
A 実施計画及び実施体制	5	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画（実施手法・スケジュール・コスト・体制）であった。また、実施過程における更なる創意工夫により、スケジュール面、コスト面等で事前計画を超える事業を実施することができた。
	4	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画（実施手法・スケジュール・コスト・体制）であった。また、事前計画通りに円滑、効果的かつ効率的に事業を実施できた。
	3	事前計画の実施手法、実施体制で若干不十分な部分があり、修正が必要であったが、ほぼ支障なく事業を実施できた。
	2	事前計画に不十分な部分（実施手法・スケジュール・コスト・体制）があり、コストの増加、スケジュールの遅延等で計画変更を余儀なくされた。
	1	事前計画またはその実施過程に問題があり、コストの大幅な増加（事前計画の 50%以上の増加）またはスケジュールの大幅な遅延（事業の完了が平成 24 年 3 月 31 日を越える）が生じた。
B 事業の実施結果	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
B 事業実施の成果・波及	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、想定外の成果の波及効果があった。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、想定外の成果の波及効果があった。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、想定外の成果の波及効果があった。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または達成値が明確でなく達成状況が判定できない。

補助事業者名	(福)XXXXXX福祉会		事業項目名				委託の有無		無	委託比率 (50%以上)	無	交付要望額		5,625	交付決定額(a)		5,250	交付決定時	7,000	3/4
	名称 変更		事業形態				新規		1 年目 / 1 年計画		各事業区分のチェックポイントに		最終予算額		5,043	執行率 (b/a)		96.1%		
補助事業名	平成23年度 機器の整備 補助事業		事業コード				公益目的事業の種類		事業区分		・沿っている		・沿っていない項目がある		決算額 (b)		5,043			

【社会的課題と補助事業の関係 流れ図】

1.社会的課題（補助事業で改善・解決等を目指す社会的課題の現状と目指す姿を記入してください）

社会的課題 (最終目的)	現 状	福祉作業所に就労する障害者(以下、利用者)にとって、十分な施設環境がないため、スキルアップの機会が少なく、また工賃もかなり低いままに据え置かれている
	目指す姿	障害がある人もない人も、能力や必要に応じた社会参加が可能で、自立した生活を営むことができる社会の実現

2.補助事業の設計・評価（社会的課題の改善・解決等に資する補助事業を設計し、事業終了後に自ら事業を評価してください）

(1) 補助事業で達成を目指す、目的の達成後の姿

補助事業の目的 (中間目的)	・本事業で導入する機器によって、利用者のスキルアップを目指す ・地元特産品と組み合わせた新商品を開発し、事業収入アップを図ることで、利用者の工賃アップを実現する
-------------------	---

(2) 補助事業の事前計画

(3) 補助事業の自己評価（自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ）

評価項目		事前計画										自己評価		自己評価Ⅱ						
		補助金 交付要望時 作成者 () [平成 年 月 日]					計画変更時(最終計画) 作成者 () [平成 年 月 日]					作成者 () [平成 年 月 日]		作成者 () [平成 年 月 日]						
A 事業内容	受益者	対象者 本法人の障害者就労支援施設および利用者(48名)・〇口物産株式会社(地域の土産物)										分析・解釈・価値判断		採点						
	ニーズ	・現在、当法人施設では製菓づくりの一部業務(包装)のみを行っているが、より幅広いニーズ・地域の土産物販売店(複数社)から、当施設での製菓製造の要望があり、実現できればいい。										実施計画通りに機器を導入し、8/28より稼働を開始した。これにより施設における製菓製造の体制が整い、地域販売店からの要望に応えられることができた。また、就労支援メニューの幅が広がり、利用者のニーズに応えることもできた。		4						
	具体的内容	当法人の障害者就労支援施設「ふれあいの森」に製菓製造機器(煎餅焼機)を導入する。																		
	実施計画	【煎餅焼機の導入計画】 4～5月 機器選定 業者選定の入札内容検討 6月 業者決定 売買 7月 機器納品・検収 【導入後の運用計画】 地域の販売会社との共同で地元特産品である海苔などの海産物を煎 【機器導入後の運用計画】 〇効率的に事業を実施出来たか。また出来なかった場合には、その理由を記入してください。										5/21機種選定委員会で機器を最終的に選定し、6月1日入札を行った。6月15日口△製菓機械株式会社と売買契約を締結し、詳細打ち合わせ調整後7月25日に「煎餅焼機」納品・検収した。 機器一式を導入と並行して製造スタッフ、開発スタッフの研修を行い、8月1日から稼働を開始(製造チーム、開発チーム)した。 また機器選定の際にメンテナンスや周辺機器導入などを合わせて検討した結果、ほぼ予定通りの費用で事業を実施できた。		4						
B 目標	実施体制	導入までの実施体制] 当法人役員と施設スタッフによって実施する。毎週のスタッフ会議、毎月 【導入後の実施体制】 製菓製造担当と製品開発担当のスタッフを養成し、担当を中心とした利										当法人役員2名、施設スタッフ5名による7名体制で、事業計画の管理を行い、事業を実施した。 また4～8月にかけてのスタッフ会議(週1回)、役員会議(月1回)の他に、6月と7月に1回づつ機器設置会議を開催し、事業計画、内容の確認を行った。 製造チーム(利用者5名×4班)と開発チーム(利用者4名)を編成し、事業を実施した。								
	事業の実施結果	指標	目標値	具体的な内容								達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断	採点					
	事業の成果・波及	指標	目標値	具体的な内容								達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断	採点					
	事業の成果・波及	指標	目標値	具体的な内容								達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断	採点					

記入のガイドライン

〇狙い通りの対象者(ターゲット)に事業を実施できたか。出来なかった場合、想定と異なった場合には、その理由を記入してください。
〇受益者のニーズに沿った事業となっていたか。まだできなかった場合、その理由を記入してください。

【機器導入】
〇事前計画通りに事業を実施出来たか。事前計画は妥当であったか。計画どおりできなかった場合には、その理由を記入してください。
〇費用に合う成果をあげる事が出来たか。予算は適切であったか。また予算と実績が異なる場合には、その理由を記入してください。
〇効率的に事業を実施出来たか。また出来なかった場合には、その理由を記入してください。
【機器導入後の運用計画】
〇事前計画通りに事業を実施出来ているか。出来ていない場合には、その理由を記入してください。

【機器導入の実施体制】
事前計画通りの体制で事業を実施できたか。計画した実施体制は妥当でししたか。事業実施にあたっては、責任の所在が明確で、指示、連絡などが円滑におこなわれたか。計画どおりできなかった場合には、その理由を記入してください。
【機器導入後の実施体制】
同上

【達成値】設置台数などの具体的な達成値を記入してください。
【達成状況】目標値に対する達成率を%で記入してください。
【分析・解釈・価値判断】事前計画時の目標値・指標の設定は適切であったのか。目標達成、未達成の原因を分析して、記入してください。

【達成値】具体的な達成値を記入してください。
【達成状況】目標値に対する達成率を%で記入してください。
【分析・解釈・価値判断】事前計画時の目標値・指標の設定は適切であったのか。目標達成、未達成の原因を分析して、記入してくださいを分析して、記入してください。

スコアリングガイドの達成率を計算する時は、評価項目目標毎の複数の達成状況の平均で当てはめてください。(この例ですと 110.5%)

自己評価のスコアリングガイドの基準に沿って採点してください。

-31-

記入のガイドライン

スコアリングガイドの達成率を計算する時は、評価項目欄毎の複数の達成状況の平均で当てはめてください。(この例ですと 110.5%)

自己評価のスコアリングガイドの基準に沿って採点してください。

(2) 補助事業の事前計画

評価項目		事前計画						自己評価			
		補助金 交付要望時			計画変更時(最終計画)			自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ	
		指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容	達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断	採点
C 広報	補助事業によりもたらされた成果の広報	①当法人HPへの掲載	①1回更新／月	①1回更新／月				①当法人HPへの掲載	①100%	①HP「施設だより」欄に「ふれあいせんべいプロジェクト」として本事業を紹介する記事を月1回更新した。(別紙 更新履歴のとおり)	4
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①地域広報への記事掲載 ②地元紙(誌)への掲載	①1回／年 ②2紙(誌)／年	①1回／年 ②2紙(誌)／年				①地域広報への記事掲載 ②地元紙(誌)への掲載	①100% ②100%	①「静岡市報」の9月上旬号に、当施設の機器導入に関する記事が掲載された。(別紙のとおり) ②9月10日付「静岡NEWS」に当施設の機器導入に関する記事が掲載された。24年2月10日付新製品開発に合わせての記事が掲載された。	4
	JKAの競輪・オートレース資金で実施した事業でこの広報	①当法人HPへの掲載	①1回／年	①当法人HP、トップページ				①当法人HPへの掲載	①100%	①23年8月1日当法人HP、トップページに本事業がJKAの補助を受けた旨を紹介する記事を掲載した。	2
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①地域広報への記事掲載 ②地元紙(誌)への掲載	①1回／年 ②2紙(誌)／年	①市が発行する「静岡市報」 ②「東海新聞」「静岡新聞」にて行う				①地域広報への記事掲載 ②地元紙(誌)への掲載	①100% ②50%	①23年9月号市報が発行する「静岡市報」で本事業の記事を掲載する際に、競輪・オートレースの補助金で行われた旨の記載を合わせて行った。 ②23年8月8日「東海新聞」記事掲載時に、競輪・オートレースの補助金で行われた旨の記載を合わせて行ったが、「静岡NEWS」は導入の記事のみで、競輪・オートレースの補助金で行われた旨の記載が省かれてしまった。	2
D 自己評価の体制										分析・解釈・価値判断	採点
	事業終了時に当法人役員、スタッフ及び外部委員として利用者家族代表と協議し決定する									8月3日当法人役員、スタッフ及び外部委員として利用者家族代表で構成される本事業評価会議を開催し、本事業の自己評価を審議し決定した。 事業評価に先立ち、事業の目的・成果の目標を全体で再確認したうえで評価を行った。選定委員会の議事録や入札資料等資料とし煎餅焼機の設置状況等も確認した。 会議で実施した評価の内容については、議事録と事業評価報告書を団体のホームページに公開をしている。(〇月〇日掲載)	4

(4) 補助事業の総括Ⅰ(自己評価Ⅰ:補助事業終了時)

作成者() [平成 年 月 日]

補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

①採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください)

②総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目についてご記入ください)

今回の事業で、優れていると評価できる点	【実績】計画通りに機器を決定し、導入、稼働開始することができた。 販売店の協力を得て商品開発を実施しているため、ニーズの把握はもちろん安定した販売を見込むことができる。 【理由】導入機器の選定から導入までの段取りについて、スタッフ会議で検討し、毎週の進捗管理を徹底することができたため。 機器の導入段階から販売店を巻き込み、売れ筋情報の把握や販売計画などについて綿密に準備することができたため。	今回の事業の課題・改善すべきと思われる点	【課題】機器は、試験的に稼働を開始しており、利用者也製造の訓練に取り組んでいるが、実際の製造には至っていない。引き続き利用者の技術習得に向けて、取り組みを行っていききたい。また、商品開発に着手した段階だが、機器の操作も含めて新たなことが多く、予定以上に時間を要する可能性が高い。 【改善策】技術の習得目標を個別にきめ細かく設定し、確実な習得を目指す。また、指導する側の職員にも研修を行い、指導内容のバラツキを改善する。 商品の開発では、販売店の協力を得て、商品開発の工程を一通り体験する。商品開発の工程を職員が理解することで、開発期間の短縮を図る。
事業全体の総括的感想	製菓製造機器の導入および稼働を計画通り実施できたことは、成果として考えている。 当面は、本機器を活用した製造担当者の養成や商品開発が課題となるが、販売量や安定した生産体制の確保など取り組むべきことは多い。 就労支援メニューの拡大や工賃アップといった目的の達成を目指して、計画的に取組を推進する。	事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アピールしたい点等(あれば)	「ふれあいせんべいプロジェクト」として、地域販売店との協力体制も生まれ、本事業による製菓機器の導入、当施設の事業拡大は地域への広がりにもつながった。 行政、地域、福祉施設が協力して行う事例として、他地域への報告も考えて生きたいと考えている。

(5) 補助事業の総括Ⅱ(自己評価Ⅱ:平成25年2月末までの状況)

作成者() [平成 年 月 日]

平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。

○事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標)、社会的課題(最終目標)の達成状況	【中間目標】 ・本事業で導入する機器によって、利用者のスキルアップを目指す → 利用者による製造担当部門が設置され、継続的に製造を実施した。引き続き部門を維持すると共に新たな利用者の参加も進めて行く。 ・地元特産品と組み合わせた新商品を開発し、事業収入アップを図ることで、利用者の工賃アップを実現する → 新商品を開発、製造を開始し、売上アップと工賃アップを実現した。今後は販売ルートの拡充やさらなる商品開発を目指す。 【最終目標】 本施設における利用者の働き方の幅が広がり、開発、製造、梱包のサイクルを通じて、自立に向けた体制を整えることができた。 今後は本施設におけるさらなる事業の拡大や事業体制の整備を通して、本施設利用者への支援強化および地域とも連携し、課題解決にあたりたい。
------------------------------	---

総合評価

3

採点欄の平均ではありません。自己評価のスコアリングガイド【総合評価】に沿って採点してください。

自己評価書の作成の注意事項（２）

- (5) 補助事業の総括Ⅰの総合評価欄の採点も自己評価のスコアリングガイドを基準にしてください。※自己評価Ⅰの採点欄の平均点ではありません。
- (6) 自己評価書提出について

ア 自己評価Ⅰ

本要領に従い、事前計画を記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記して、**事業終了後２週間以内に、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします（P.8「５．自己評価書の作成・提出（１）」）**をご参照ください。）

※自己評価の評価過程、参加者等の記録（議事録等）を併せて添付・ご提出ください。

なお、作成した自己評価書は、「補助事業の完了報告書」に併せ、紙面でもご提出ください。

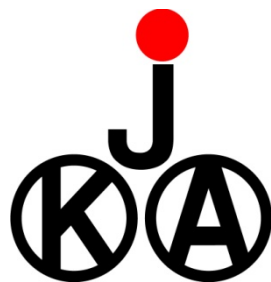
イ 自己評価Ⅱ

本要領に従い、事前計画、自己評価Ⅰを記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に平成２５年２月末の現況を追記して、**平成２５年３月末までに、p23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします。（P.9「５．自己評価書の作成・提出（２）」**をご参照ください。）

※自己評価の評価過程、参加者等の記録（議事録等）を併せて添付・ご提出ください。

【自己評価のスコアリングガイド 2/2】

C 補助事業によりもたらされた成果の広報	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、外部の大きな反響または高い評価を受けた。（表彰、専門誌・新聞等に取り上げられるなど）
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
C JKA の競輪・オートレース補助金で実施された事業であることの広報	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、計画外の自らのオリジナルな手法で広報を実施、または外部機関（新聞等）に大きく取り上げられた。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
D 自己評価の実施体制	5	外部委員が参加する評価委員会で評価が実施された。また、記録（議事録）から評価過程等が確認できる。
	4	団体内部に組織された評価委員会（外部委員の参加なし）で評価が実施された。また、記録（議事録）から評価過程等が確認できる。
	3	委員会形式ではないが自らの事務局内部に組織上の評価体制があり、また、記録（議事録）から同体制で実施された評価過程等が確認できる。
	2	本事業の担当者が単独で評価し、団体責任者が決裁するなど、評価について議論する場が設定されていないが、評価過程等が記録で確認できる。
	1	担当者のみで評価した。または、議事録など、評価の実施過程等を示す記録が示すものがない。
総合評価	5	全体として極めて高いレベルの事業であった。
	4	全体として比較的高いレベルの事業であった。
	3	一部に不十分な水準の内容があり、今後の課題となるが、全体としてはほぼ問題のないレベルの事業であった。
	2	全体として不十分なレベルの事業であり、いくつかの課題が残った。
	1	全体として極めて不十分なレベルの事業であり、根本的な見直しが必要である。



問合せ先

財団法人 JKA

〒102-8011 東京都千代田区六番町4番地6

[補助事業評価室 評価担当]

TEL:03(3512)1279 FAX:03(3512)1274

問合せ時間 平日の午前9時30分 から 午前12時まで

午後1時 から 午後5時30分まで

ホームページアドレス

補助事業

<http://ringring-keirin.jp>